

特16

447

藤田高之先生閣
淺野 永一 著

刑法義疏

卷之壹

東京書肆 巖々堂藏版

035665-000-2

特16-447

刑法義疏 卷之1

淺野 永一 / 著

M16

BBP-0234



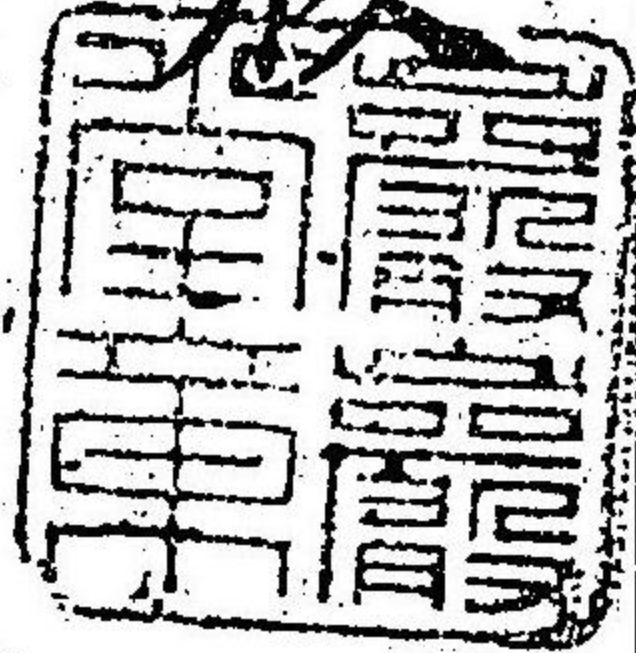
特 16
447

藤田高之先生閱
淺野永一著

刑法義疏

卷之壹

東京書肆 巖々堂藏版



子 子

子 子

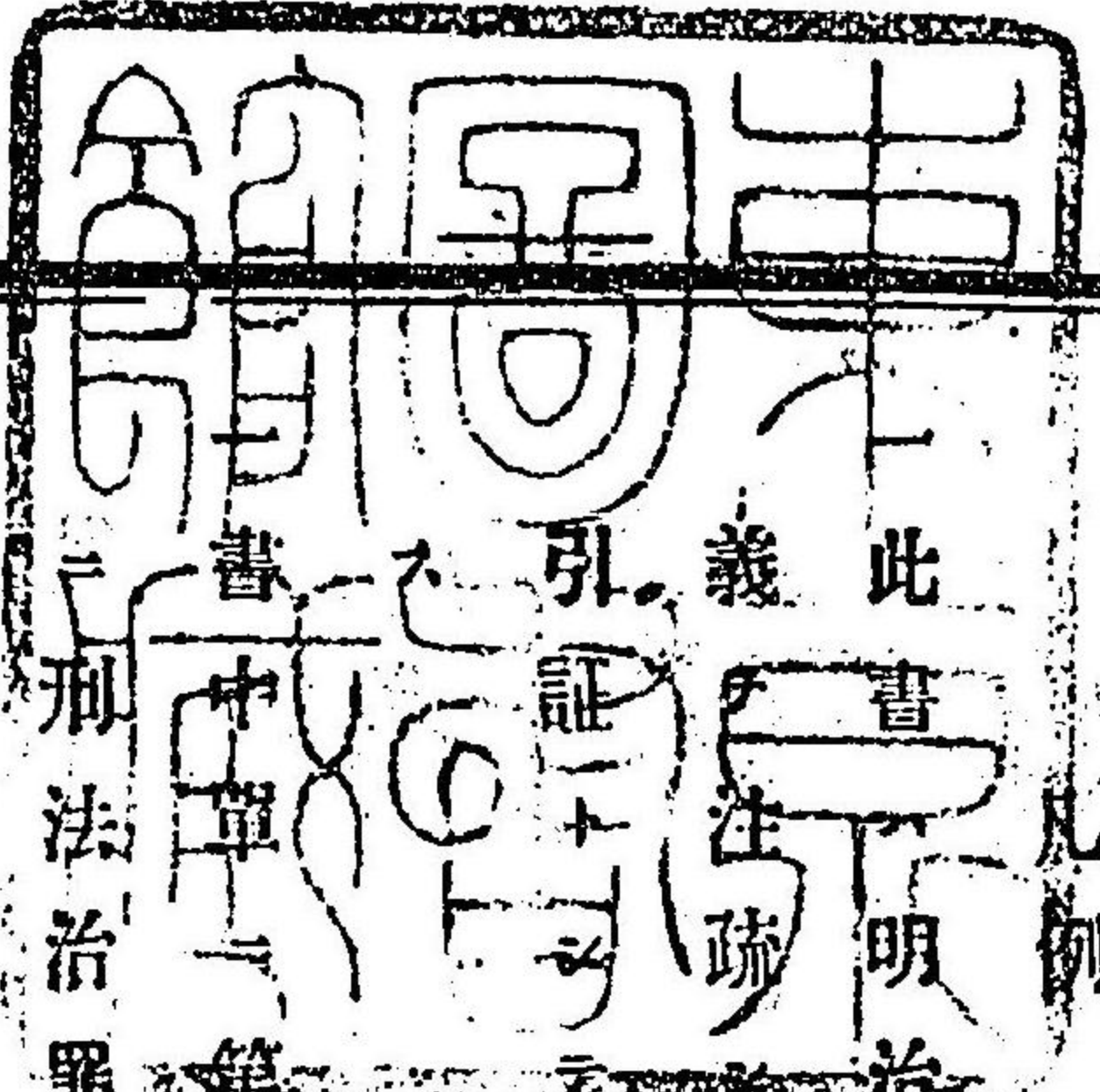
子 子

子 子

明治十六年三月

及

野野野



此書 明治十三年七月太政官第三十六號布告刑法ノ意
 義ヲ注疏タルモノニシテ各國法典及ヒ先哲ノ議論ヲ
 引証シテ疑問ヲ決シ且ツ法文ヲ明解シ誤謬ナキヲ期
 ス

一 各國法典ヲ引証シタルハ此刑法ノ法文ヲ指ス又單
 一 本邦刑法及ヒ治罪法ト區別ス

一 書中文字ノ右傍ニ單柱トシテ施シタルハ人名右傍ニ双柱
 一 川ヲ施シタルハ地名左傍ニ單柱トシテ施シタル者ハ原語
 一 指示シ預メ混一ヲ防ク

一書中草案トテ此刑法草案ヲ謂フ外國法典ノ草案ヲ
揭ケタル片ハ必ス何國ノ二字ヲ冠ス
一參考ヲ要スヘキ所ニ括弧□ヲ施シ其内ニ參考ノ要項
ヲ記載ス
一書中緊要ナル文字ニハ圓點○ヲ附シ以テ讀者ノ注意ヲ
促ス

刑法義疏卷之一

目錄

總論

罰權

犯罪ノ區別

第一編 總則

第一章 法例

第二章 刑例

第二節 刑名

第三節 主刑處分

第三節 附加刑處分

卷之三

附錄

第四節	徵償處分
第五節	刑期計算
第六節	假出獄
第七節	期滿免除
第八節	復權
第三章	加減例
第四章	不論罪及ヒ減輕
卷之三	
第一節	不論罪及ヒ宥恕減輕
第二節	自首減輕
第三節	酌量減輕
第五章	再犯加重

第六章	加減順序
第七章	數罪俱發
第八章	數人共犯
第一節	正犯
第二節	從犯
第九章	未遂犯罪
第十章	親屬例
第二編	公益ニ關スル重罪輕罪
第一章	皇室ニ對スル罪
卷之四	
第二章	國事ニ關スル罪
第一節	内亂ニ關スル罪

第二節 外患ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第一節 兇徒聚衆ノ罪

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四節 私ニ運用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル

罪

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪

第七節 人ノ住所ヲ侵スル罪

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪

卷之五

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病証書ヲ偽造スル罪

第六節 偽証ノ罪

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第八節 身分ヲ詐稱スル罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪

第二章	飲料及淨水ヲ汚穢スル罪
第三章	傳染病豫防規則ニ關スル罪
第四章	危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪
第五章	健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪
第六節	私ニ醫業ヲ爲ス罪
卷之六	
第六章	風俗ヲ害スル罪
第七章	死屍ヲ毀棄シ及ビ墳墓ヲ發掘スル罪
第八章	商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪
第九章	官吏瀆職ノ罪

第一節	官吏公益ヲ害スル罪
第二節	官吏人民ニ對スル罪
第三節	官吏財産ニ對スル罪
第三編	身体財産ニ對スル重罪輕罪
第一章	身体ニ對スル罪
第一節	謀殺故殺ノ罪
第二節	毆打創傷ノ罪
第三節	殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不論罪
第四節	過失殺傷ノ罪
第五節	自殺ニ關スル罪
第六節	擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪
第七節	脅迫ノ罪

第八節 墮胎ノ罪

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第十節 幼者ヲ囂取誘拐スル罪

卷之七

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪

第二節 強盜ノ罪

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第四節 家資分散ニ關スル罪

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第六節 贓物ニ關スル罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四編 違警罪

目錄終

緒言

凡ソ法ヲ講スルニ當テ理論ヲ主トシ冗長ナル論議ヲナシ
初學者ヲシテ多岐亡羊ノ歎ヲ發セシムルアリ或ハ唯法條
ノ文字ノミヲ解シ隔靴搔痒ノ憾ヲ懷カシムルアリテ未ダ
初學者ヲシテ満足セシムルニ足ルモノ殆ント希レナル矣
余ハ今此稿ヲ草シ此二者ヲ折衷シテ冗長ニ流レヌ又簡短
ニ失セヌ成文ハ成ルヘリ細分シテ文字及ヒ意義等ヲ説明
シ論ス可キハ之ヲ論シ議ス可キハ之ヲ議シ而シテ之ヲ決
スルニ多クハ先哲ノ確説ヲ以テシテ誤謬ナキヲ期シ專ラ
初學者刑法ヲ講究スルノ一端ニ供スル而已

明治十六年一月

編者誌

刑法義疏卷之一

藤田高之 閱

淺野永一 著

總論

凡ソ人自己ノ隨意ヲ以テ物品ヲ掠奪シ若クハ他人ヲ傷スルモ自主自
由ノ權利ナリ而シテ人他ヨリ害ヲ受ケルハ忽チ憤心ヲ發シ怒氣ヲ起ス
ハ天然ノ情性ナリ故ニ被害者此情性ニ隨テ以テ復讐ヲナスハ其自由
ノ權利也然レ人各其自由ヲ主張シ情慾ヲ充タント欲スルハ甲乙チ
害シ乙之ニ讎ヒ爭鬪止マス常ニ大ハ小チ凌キ強ハ弱チ壓シ社會ノ安
寧一日モ保ツ可ラス左レハ此等極端ノ自主自由ハ到底行ハルヘキ權
利ニ非ス抑々人ノ此社會ニ於ケル公福公利ヲ共享シテ自己ノ安固ヲ
得ル理當ニ然ルベキ也故ニ苟モ社會ヲ爲ス必ス人ノ社會ニ對スルノ

職分ヲ規定セサルヲ得古云々ルア國ニシテ法律ナキニキハ自由權利ヲ得可スル所ナシ又云々ルア人皆欲スル所ヲ爲スル得可キ國ニ於テハ一人トシテ欲スル所ヲ爲スル得可キ國ハ人皆君主ナリ人皆君主ナル所皆皆奴隸ナラサル所ト旨ヒ哉言ヤ國ニシテ法律ナキニキハ己ニ述ベタル如ク互ニ盜奪シ互ニ毆傷シ都テ自由權利ヲ得ル能ハス然ラハ則チ社會ノ安寧ヲ保チ各人ノ幸福ヲ全フスルハ法律ヲ制定スルニ若クハナシモンテズモ云々ルア自由權利ヲ殺却シテ政制上ニ自由ヲ得ルト蓋チ此謂ハル者ハ夫以國ニシテ法律ナケレバ腕力社會トナル試ミニアソリカ印度土人ヲ看ム交誼ノ何クルヲ知ラス道理ノ如何ヲ知ラス只管腕力ヲノ是レ恃ミ強者ハ跋扈シテ弱者ヲ凌キ弱者ハ常ニ強者ノ食餌トナル甚シキ者至ルテハ父子相食兄弟相虐ニ恬トシテ怪マサルニ至ル無法律ノ結果ハ斯ル慘狀

此等又非因ヤ其他流アリ南部分地方及ヒ台灣等率チ皆然リ此等然地方惡陋モ政府ニ設立シテ法律ヲ制定セハ漸次ニ文明ニ趣キ開化ニ進スハ明鏡ニ懸ケテ見ル其リ爾明ナリ今日文明ヲ以テ自誇誇リ開化ヲ以テ母ヲ誣シタ愛英米佛ノ如キモ之ヲ往古ニ遡テ考フレハ皆蒙昧野蠻大異ヲ遠リ印度土人率チ一般ナリ或ハ漸々法律ヲ設テ規律ヲ制シ歩々文明ヲ進シ遂ニ今日ノ有様ヲ爲シタル也然ラハ則チ社會ノ公益ヲ増進シ稠衆ヲ安寧ヲ保ント欲セハ法律ヲ制定スルニ非レハ能ハサル蓋チ法律ニ分テテ云々ルア天然法律云ヒニチ人爲法ト云フ而シテ人爲法爲法律ニ分テテ云々ルア公法ニ云ヒテ私法ト云フ刑法ハ即チ公法ニ一部ニシテ益ヲ保護スルニ必要次第ヲ示サレモノナリ例ニシテ疾疫ノ疾病ニ於テ醫藥ヲ用テ之ヲ治スル之法治法ヲ得テ社會ニ犯罪既殺テ亦然リ刑罰ニシテ治法ヲ得テ之ヲ治スル

乘レ刑罰ト犯罪トハ密着セテ離ル可ラス法律ノ權ヲ以テ罪惡ヲ罰ス
 之ヲ刑罰ト云ヒ法律ニ背クノ所爲之ヲ犯罪ト云フ犯罪ハ公衆ノ仇讎
 ナル刑罰ハ公衆ノ保護者ナリ犯罪ハ一人利益ヲ得ント欲シテ害ヲ社
 會ニ流布シ刑罰ハ一人ヲ懲シテ億兆其堵ヲ安ス嗚呼刑罰ノ利益大ナ
 ルカナ蓋シ刑法ノ目的ハ社會ノ公安ヲ保護スルニアレハナリ是ヨリ
 犯罪ヨリ生スル結果ヲ示サン
 第一一人ヲ殺傷シ物品ヲ掠奪スル等ノ罪ヲ犯スモノアルハ之ヲ假
 借セズ其者ニ對シ刑罰ヲ加フ然ラスハ人民法ヲ信セズシテ政權地
 ニ落ツ是レ第一ノ憂ナリ
 第二ハ二個ノ危險ヲ生ス其一再犯ノ憂ナリ其二世人之ニ倣フテ遂ニ
 爲シテ惡例ヲ流布スルノ憂ナリ
 此等ノ憂ヲ防クニハ犯人ヲ罰シテ苦ヲ覺ヘシメ犯人ヲ懲戒シテ再ヒ

刑罰ニ觸レサヲシムルハ他人之レヲ見テ戒懼シテ倣フ事ヲシムルト
 其ニ點トシ然レハ嚴刑ヲ以テ罰ス可キカ否決テ然ラス犯人ヲ罰ス
 ルハ嚴刑ヲ以テスルハ社會其嚴ニ馴レ刑ノ効力薄フシテ反テ犯人
 減少セス故ニ可及的寛刑ヲ適正ナル刑ヲ以テ罰スニシテオレシオノ
 詩曰夕我輩ヲ以テ罪犯ニ加フルニ公平ナル刑罰ヲ以テシ正シキ法
 律ヲ有ルニシテ樺杖ヲ以テ撻テハ足ル所ノ犯人ニ殘酷ナル答杖ヲ加
 フルカ如キ過重ノ刑アズル勿レ下善ヒ哉言ヤ凡ソ刑ハ嚴ニスル
 モ寛刑ニシテ其効力ハ一ナリ否寛ナルニ益アルニ若カス斯ク論ヲ去
 シハ或ハ云クシ假令世ニ開明ニ赴クニ雖モ刑ノ効力ハ寛ナルヨリ嚴
 ナルニ若カス何レトモ人ハ必ズ畏懼心アル者ニシテ嚴ナルハ恐レ
 寛ナルハ之レヲ侮ル故ニ嚴刑ヲ以テ犯人ヲ待テ社會ヲシテ畏懼心ヲ
 抱カシムルニ若カス則チ余之レヲ答テ曰ク決シテ然ラズ往古佛國ニ

於テハ處刑シタル屍骸處刑場ニ掛テ骨節ノ破ル、迄之ヲ存置シ衆人
 刑ノ嚴大ナルヲ示シ然ルニ當時之ヲ見ル者其慘狀ニ馴レ心自ラ
 殘忍ヲ著ニ至テ反テ畏懼心ノ効ヲ減シタリ又英國ノ古法ニ贖金ヲ發
 行シタル婦女ヲ罰スルニ杖刑ヲ以テシタルトモ尙犯人ヲ減少シタル
 ナリ如斯往昔未開ノ時ニ當テハ各國嚴刑ヲ以テ罰シ而シテ今日爭テ
 寬刑ヲ用ユルニ至リ然ルニ犯人ノ増減如何ヲ觀察スルニ犯人ハ年
 々年々減少ス是レハ由來之ヲ觀レハ犯人ノ増減ハ人民ノ智愚如何ニ
 原因シテ刑ヲ寬嚴ニ因ルモノニ非ス故ニ余ハ刑ハ寬ニスヘシト謂フ
 所以ナリ然レモ妄ニ刑ヲ寬ニスヘシト云フニ非ス唯適正ナル刑ヲ
 用ヒ罰罪レ以事足レリ何ゾ適正ノ刑ト云フ曰ク犯人ノ所爲ニ因リ
 害ニ社會ニ流布シタル罪多少ヲ犯人ノ意思如何ヲ度ニ從テ刑ヲ科シ且
 以刑ニ苦痛ヲ可クシテ犯人ノ身ニ止ルル可密裁判ノ錯誤アルトキハ

之ヲ正シ犯人ノ悔悟シタルハ之ヲ賞シ又犯人ノ情狀ヲ酌量シ其過
 不及ナカラシメ且ツ可及的平等ニシテ輕重ヲ區別スルニ當リ
 此等ノ諸件ヲ含有シタルモノニ非レハ決シテ完全良美ナル刑法ト云
 フヲ得ス何トナレハ是等ノ諸件ヲ欠クキハ刑法ノ目的即チ犯人ヲ懲
 戒シ社會ノ戒メトナルヲ得サレハナリ

罰權

前段述フルカ如ク犯人アルキ刑法必ス之レヲ罰セサル可ラス之レヲ
 罰セントセハ罰權ナカル可ラス佛國ニ於テ或新聞記者ハ嘗テ社會ハ
 犯人ヲ罰スルノ權ナキコトヲ論シテ曰ク社會ハ何程刑罰ヲ行フト雖
 其効ヲ見ス知ルヘシ日々犯人ヲ罰スト雖モ尙犯人多シ且ツ一度刑
 ヲ受クルト雖モ尙再犯スルモノアルニ非スヤト此意ヲ推スニ斯ク多
 シノ犯人ヲ罰スト雖モ一ツモ其効ナシ是レ政府ニ罰權ヲ有セサル所

以ナリトノ旨趣ニ外ナラス果シテ記者ノ論スル如クナラシメハ寧ロ
刑法ヲ廢スルニ若カス然レモ刑法ヲ文具トスルヲ得ス社會ニ罰權ナ
シト云フヲ得ス如何トナレハ社會ノ秩序乱レヌシテ公安ヲ保ツ者ハ
畢竟刑法ノ力即チ罰權ノ力ナリ然レモ社會ニ罰權ヲ有シ其効アルハ
明々白々タリ而シテ社會ニ罰權ヲ有スルノ旨趣ニ於テハ古來種々ナ
ル説アリ古來ノ諸説ヲ述フルハ蛇足ノ如クナレモ三個ノ利益アリ第
一法律ノ進歩ヲ知ルニ必要ナリ第二沿革ヲ知ル第三此二者ヲ玩味シテ後
チ今日行ハル、所ノ説ノ益々眞理適正ナルヲ覺ユ即チ是ナリ故ニ余
ハ其冗文ニ非サルヲ信スルヲ以テ之レヲ畧述セントス
第一復讐主義 此説ハ上古ヨリ中古迄行ハレタレモ千七百年代大ニ
非難セシモノアリテ遂ニ廢止シタリ此説ヲ主唱スル者ノ論據トスル
所ハ凡ソ人他ヨリ害ヲ受クルキ憤怒心ヲ發シ復讐ヲ爲スハ天性ナリ

又正理ナリト又曰ク被害者自ラ復讐ヲ爲スルハ却テ社會ヲ擾乱ス故
ニ社會ハ之レカ代理者トナリテ加害者ヲ罰スト
此説ハ純然タル野蠻人民ノ説ニシテ甚々道理ニ背反シタルモノナリ
何トナレハ復讐ハ憤怒心ヲ晴スノ所爲ニシテ社會ノ行フヘキ權利ニ
非ス又人トシテ人ヲ毆打シ人ヲ殺ス等ノ權利ナキモノナレハナリ然
レニ復讐説ヲシテ盛ナラシメハ被害者ノ自ラ加害者ヲ罰スルニ至ル
豈吾人自ラ人ヲ罰スルノ理アラソヤ假令社會ヲシテ代理者トシ罰セ
シムルモ復讐ヲ以テ刑罰ノ主義トナスヘキモノニ非ス往昔歐洲各國
及ヒ我國ニ於テ種々ナル嚴刑ノ行ハレタルハ蓋シ復讐主義ノ致ス所
ナルヘシ然ルニ我政府幕府時代ニ在テ許ス所トナリタル仇討チノ如
キハ不正ノ所爲ナルヲ以テ斷然之レヲ廢止タルハ亦以テ美學ト謂ッ
ヘシ

第二民約主義 此說ハ十八年期ニ至リ佛國ノルーソー氏之ヲ主張シ
夥多ノ學士モ此說ニ左袒シ一時ハ大ニ歐州ニ行ハレタリルーソー氏
曰ク上古ハ人々皆離散シテ生活セシガ或ハ猛獸ノ侵犯ヲ禦キ或ハ天
變地異ノ災患ヲ避ケンカ爲メ互ニ相契約シテ社會ヲ結ビ規則ヲ創設
シ之ヲ犯スモノアルトキハ刑罰ヲ行フヘシト爲シタリト
此說想像ノ甚シキモノト云ハサルヲ得ス夫レ社會ニ加ハラサルノ自
由アリ己レノ身体ヲ殺サ、ルノ權利アリ而シテ性命ト自由トハ吾人
ノ最モ貴重ナル無形財産ナリ故ニ斯ル貴重ナル自由ト性命トヲ目的
トシタル契約ハ往昔ノ愚民ト雖モ敢テ爲サ、ル所ナリ今一步ヲ退テ
若シ斯ク契約シタリトスルモ此契約ハ決テ成立スヘキモノニ非ス其
成立ス可ラサル契約ヲ借テ罰權ヲ行フヘキモノト爲スハ亦誤レリト
謂フヘシ

第三補償主義 之ヲ主張スルモノ、說ニ曰ク他人ニ損害ヲ加フルキ
ハ之ヲ償フ可キハ當然ノ理ナリ故ニ罪ヲ犯シタルキハ必ス刑罰ヲ受
ケ之ヲ償ハサル可ラスト
此說亦刑法ノ目的ニ反シ旨趣ニ背クモノナリ例ヘハ甲者アリ乙者ヲ
毆打シ負傷セシメタルカ爲メニ刑ヲ受クルハ乙者ノ爲メ其罪ヲ償フ
ニアリトスルキハ乙者ハ甲者ニ向テ汝ヲ余カ爲メニ刑ヲ受クルニ及
ズト云ヘハ甲者ハ無罪トナルナリ抑々刑罰權ハ社會ニ屬ス治罪法第
一條一項ヲ參看スヘシルモノニシテ乙者一個人ノ資格ヲ以テ之ヲ左
右スヘキモノニ非ス故ニ此說ハ償ト罰トヲ混淆シタルモノニシテ刑
法ノ目的及ヒ旨趣ニ違背シタリト云フモ不可ナカルヘシ
第四正當防衛 此說ヲ爲ス者曰ク吾人ハ皆正當防衛ノ權アリ社會ハ
即チ吾人々民ノ集合体ニ非スヤ然レハ吾人ト同シク其權ナカル可ラ

是亦正當防衛以何ヲ知ラサルモノ、説ニシテ甚ク道理ニ背反
 シタルモノナリ抑々正當防衛ノ權利ハ事起ルノ時ニ始ルヘシ罰權ハ
 事起ルノ後ニ於テ發スルモノナリ例ヘハ甲者ハ乙者ヲ毆ントス此時
 乙者ハ遁ル、ニ路ナク然ドモ之ヲ防クニ非ンハ甲者ノ爲メニ身体ニ
 傷ヲ受ケ甚シキニ至テハ性命ヲモ奪ハル、モ知ル可ラス故ニ止ムヲ
 得ス之ヲ防ク是テ正當防衛ト云フ甲者ハ遂ニ乙者ヲ殺シタリ是ニ於
 テ罰權即チ其力ヲ發スルモノナリ然ルニ此説ノ如クナラシメハ正當
 防衛權ハ發ス可ラサルトキニ發シ恰モ罰權ト密着シタルモノ、如ク
 ニシテ正當ノ意義何レニアルヤチ知ラス正當防衛權ノ濫用ト云ハサ
 ルヲ得ス又説ヲ爲ス者曰ク犯人ニ刑罰ヲ加ヘテ他ノ是ニ倣フモノナ
 リ自戒モシム是即チ正當防衛ト云フ此説亦正當防衛ヲ知ラサル

ナリ如何野ナレハ社會シ懲戒暨防衛トシテ宵壤以差アテモノニシテ混
 同終テラサレモノナリ且シ社會シ懲戒トスルハ刑ノ目的ニシテ罰權
 ノ起原ニ非ス、其等々々皆然ナリ、
 第五道義主義主此説ハ千八百年代カント、ヨトセスト、メーヌトス、氏之
 テ主張ナレ曰ク人苟モ道義ニ背反ス可ラス若シ背クモノアルトハ直
 チニ罰ヲ行ヒ而シテ其人ヲシテ悔悟セシム故ニ假令所爲未ダ社會ニ
 發シ害ヲ加ヘサルモ之ヲ罰セサル可ラズ、
 果シテ此説ハ據ルトハ刑法ニ性質チ一變シテ宗教上ノ規則タルニ過
 キニ道義ニ違背スル者殊罰セサルハ刑法ノ性質ナリ否勢ヒ罰スルヲ
 得サザルモノナリ然ルニ此説ハ依テ是ニ吾人思想上ノ細微ニ立チ入り
 甚ク苛酷ニ法律ヲ設テ其刑ヲ得サルニ至ル加之人々互ニ思想ス如
 何ヲ詮索シテ大ニ自由權利ヲ害スルニ至リ刑法ハ反テ自由ヲ妨害ス

ルノ具トナルナリ豈如斯ニ理アラシヤ
 第六公益主義 此説ハ千八百年代ハンダニユチリタリトス氏ノ主唱
 ズル所ナリ此説ニ據ルニ社會豈理非曲直ナルモノスラシヤ苟モ罰シ
 テ多數人民即チ社會ノ利益トナルトハ宜シク之ヲ罰スヘシト
 若シ此説ノ如クナラシメハ豈危険ナラスヤ何トナレハ善事ヲ爲シ正
 理公道ニ乖カサルモ之ヲ罰シテ社會ノ利益トナストハ輒チ罰セラル
 ハチ得然ルトハ遂ニ無罪人トモ罰セラルニ至リ社會ハ常ニ危懼心ヲ抱
 キテ自由ヲ暢ルヲ得サレバナリ
 第七精義公益主義 此説ハギッソト氏主唱シロシトオルトランボアタ
 ーハルニユ一氏等之ヲ贊成シタリ其説ニ曰ク心術ノ不善ニシテ
 且公益ヲ害シタルモノヲ罪トスト即チ第五第六説ヲ折衷シタルモノ
 ニシテ眞理ヲ究メタルモノト謂フヘシ今日全地球上行ハルハ所シ主

義即チ是レナリ
 抑々社會ハ猶ホ人ノ如ク身体ニ創傷ヲ受ケス心術ノ害惡ニ陥ラカル
 一チ希圖セサル可ラス故ニ必要ノ爲メニ刑罰ヲ施シ犯人ヲ罰シ而シ
 テ他ヲシテ恐懼セシメ之ニ倣フモノナカラシム是レ即チ公益ナリ犯
 人ニ苦痛ヲ覺ヘシムルハ害ヲナシタルニ因ル是レ天理ノ然ラシムル
 所ナリ故ニ苟モ社會ヲ害シ自己ノ道義ヲ破リタルトハ之ヲ罰シテ苦
 痛ヲ受ケシムルハ眞ニ正鵠ヲ得タリト謂フヘシ論者アリ曰ク違警罪
 及ヒ輕罪ノ如キハ公益ノ爲メニ固ヨリ罰セラルヲ得スト雖モ往々心
 術純正ニシテ一點ノ惡意非ラサルモ尙此刑ニ觸レ罰セラルトアリ
 左レハ此説未タ盡セリト云フヲ得スト然ドモ純良ナル社會ニ於テハ
 道義上惡トナスモ公益上未タ害トナラス而シテ公益上害トナリタル
 者道義上ニ照シ不善タラサル者甚タ稀ナリ斯ク稀有ヲ以テ直ニ此説

ヲ非難スルハ未タ以テ取ルニ足ラサルナリ學士輩ノ理論區々トシテ
一ナラサルニモ拘ハラス諸國刑法ノ相似タルハ蓋シ眞理ノ然ラシム
ル所ニ非スヤ

犯罪ノ區別

犯罪ノ種類ヲ區別スルハ刑法中最モ重大ナル利益アルモノニシテ輕
忽ニ看過ス可ラサルモノナリ古來學士中之ヲ諸種ニ區別シ密ナルア
リ疎ナルアリテ讀者チシテ倦怠ノ意ヲ生セシムルアリ隔靴搔痒ノ歎
ヲ發セシムルアリ故ニ余ハ務メテ實際ニ有益ナル區別ニ從ヒ之ヲ論
セントス其順序左ノ如シ
第一有意犯無意犯第二即時犯繼續犯第三國事犯常事犯第四特別犯普
通犯第五現行犯非現行犯ナリ
右ノ外爲事犯不爲事犯ノ區別アリト雖モ實際上有益ナルモノニ非ス

又佛國等ニ於テハ單一犯集合犯等ノ區別アリト雖モ我國ニ於テハ集
合犯アルヲ聞カス又刑法中集合犯ノ性質ヲ有シタル法條ヲ見ス故ニ
是等ノ區別ハ論セサルナリ又刑法中大眼目トナルヘキ重罪輕罪違警
罪及ヒ已遂犯未遂犯ノ區別アリト雖モ法條ニ入り充分ニ論辨セント
欲シ此區別中ニハ論及セサルナリ

第一有意犯無意犯ノ區別

法律上認メテ犯罪トナスニハ必ス惡意ヲ含有セサルヲ得ス惡意中ニ
ハ二原素ヲ含有セリ即チ故意知覺是ナリ此二原素ヲ含有シ犯シタル
者之レヲ有意犯ト云ヒ之レニ反シテ知ラズ識ラス犯罪ヲナスコトアリ
之レヲ無意犯ト云フ

抑モ刑法ハ有意ヲ罰シ無意ヲ罰セサルヲ原則トスト雖モ無意犯ヲ罰
スル場合アリ(第三百十七條等參看)然レハ一犯人アルモ無意犯ナル

ヤ有意犯ナルヤヲ証明セサル可ラズ何トナレハ其關係甚々重大ナレ
 ハナリ
 例ヘハ毒藥ヲ以テ殺人罪ヲ犯シタリ此犯人故意且ツ隨意ニシテ是非
 善惡ヲ識別シテ殺シタルハ刑法第二百九十三條ヲ適用シ死刑ニ處
 セラル可ト雖モ若シ其毒物タルヲ知ラス酒或ハ茶ナリト確信シ之ヲ
 飲マシメテ殺シタルハ第三百十七條ニ照シ廿圓以上二百圓以下ノ
 罰金ヲ以テ罰セラルベシ又火ヲ放テ家屋ヲ燒失セシメタル者ハ第四
 百二條ニ依リ罰セラル可ト雖モ失火シタルハ第四百九條ノ犯罪ヲ
 ルヲ免レス
 同一ノ所爲ト雖モ意思ノ有無ニ依リ差違アルヤ此ノ如シ故ニ必ス無
 意ナルヤ將タ有意ナルヤハ充分ニ証明セサル可ラス
 違警罪ノ如キ微罪ト雖モ尙犯人ノ意思如何ヲ問フヘキカ論者アリ曰

ク第七十七條ハ刑法總體ニ及スヘキモノナルヲ以テ違警罪ニモ及ス
 ヘシト余ハ之ニ服スルヲ得ス違警罪ノ如キハ極メテ微罪ニシテ他ノ
 刑ヨリ少シク罪質ヲ異ニスルモノニシテ(第八十三條第九十三條第百
 一條第百十三條三項等參看)元來不注意ヲ罰スル者多シ故ニ第七十七
 條ノ原則ヲ適用セス試ミニ佛國刑法ヲ看ミ違警罪ハ總テ罰スルニ非
 スヤ我刑法亦同一ノ精神ナリ故ニ余ハ斷シテ違警罪ハ有意無意ヲ問
 ハス罰スルモノトス

第二即時犯繼續犯ノ區別

即時犯トハ其所爲ニ着手スルヤ否直ニ成立シテ目的ヲ達スルモノナ
 リ繼續犯トハ着手シテヨリ永ク續ク犯罪ヲ謂フ
 凡ソ人類ノ所爲中ニハ直ニ目的ヲ達スルモノアリ永續シテ目的ヲ達
 スルモノアリ例ヘハ人ニ年金ヲ與フルモノハ永續シテ初テ其目的ヲ

達シタルモノナリ又一時人ニ金ヲ與フルモノハ之ヲ與フルヤ直ニ目的ヲ達シタルモノナリ犯罪亦然リ例ヘハ殺人罪或ハ放火罪或ハ盜罪或ハ毆打創傷等ノ如キハ着手スルヤ直チニ其目的ヲ達シ其所為ヲ繼續セント欲スレモ能ハサルナリ

然レ其結果ニ至リテハ往々繼續スルモノアリ一度放火シタルヲ以テ火勢熾ニシテ數日間消滅セケルコトアリ又毆打セラレタルヲ以テ數十日或ハ數月間疾苦ヲ受ケ遂ニ廢篤疾ニ至ルコトアリト雖モ此等ハ皆結果ノ然ラシムル所ニシテ所為ノ繼續ト云フヲ得ス

抑々繼續犯ナルモノハ着手セシヨリ永ク其所為ヲ續キ行フモノナリ即チ貨幣偽造或ハ不法監禁罪ノ如キモノ是レナリ貨幣偽造ハ一朝一夕ニシテ目的ヲ達スヘキモノニ非ス又犯人ノ意思ヲ以テ其所為ヲ數月或ハ數年繼續セント欲スルモハ繼續シ得ルモノナリ不法監禁罪ノ

如キモ犯人ノ意思ヲ以テ數日或ハ數月監禁スルヲ得ルモノナリ

元來繼續犯ノ性質ヲ有シタルモ即時犯トナル場合アリ又元來即時犯ノ性質ヲ有シタルモ繼續犯トナル場合アリ例ヘハ官許ヲ得スシテ永ク醫業ヲ爲サント欲シ開店シタルニ直ニ發覺シタルモハ繼續犯ノ性質一變シテ即時犯トナル又森林ヲ數年間ニ伐木シテ盜ミタルモハ即時犯變シテ繼續犯トナル而シテ刑法中繼續犯ノ性質ヲ有シタル法條ハ如何ナル箇條ナルヤヲ示サントス

第二百二十條 第二百二十九條 第三百六十條 第三百四十二條 第三百五十三條 第二百五十六條 第二百五十九條 第二百六十二條 第二百七十七條 第二百七十八條 第三百二十二條 即チ是レナリ此他尙繼續犯類似ノ條ニシテ足ラスト雖モ一目瞭然タルハ大概以上ノ外ニ出テス尙違警罪及ヒ特別犯中ニハ種々ナル繼續犯之レアルヘシ

古來學士中往々繼續犯ト連續犯トヲ區別スルモノアリ其説ヨ曰ク連續犯トハ犯人ノ所爲出沒常ナク或ハ絶ヘ或ハ續ク者トス例ヘハ徒黨一揆ノ如ク昨日ハ戰ヒ今日ハ休戰シ或ハ東ニ見ハレ或ハ西ニ出テ其舉動絶ヘント欲シテ續キ續カント欲シテ絶ヘル等ノ類ナリ

繼續犯トハ其行爲始終一ニシテ須臾モ間斷ナキモノ例ヘハ不法監禁又ハ應禁ノ兵器彈藥ヲ所有スル罪等ナリト余ハ斷シテ其區別ナシトス左ニ其理由ヲ示サン

外面上ヨリ觀察ス下スルハ或ハ論者ノ如キ説出ツルト雖モ之ヲ法律ニ照ストキハ決シテ然ラズ同性質ノ犯罪ナク徒黨蜂起シテ今日ハ戰ヒ明日ハ休シ或ハ東ニ起リ或ハ西ニ見ハル、モ其意思其所爲ハ繼續シテ間斷アルモノニ非ズ然レハ不法監禁等ト何ソ其區別アラシテ之ヲ區別スルモ何ノ利益カ之レアラシク加之若シ論者ノ説ノ如クセ

ハ被告人ノ大不利益ヲ醸成スルニ至ル何トナレハ法律ハ繼續犯ニノミ數罪ヲ以テ一罪トシ期滿免除モ最終ノ日ヨリ起算スルニ論者ノ如ク之ヲ區別スルモ徒黨蜂起シテ數月間ニ數十度戰フハ數十罪ヲ以テ論セサルヲ得ス期滿免除モ蜂起セシ日ヨリ起算セサルヲ得サレハナリ同一ノ所爲ヲナシテ其法方ノ異ナルヲ以テ一ツハ繼續犯ノ利益ヲ與ヘ一ツハ連續犯トシテ其利益ヲ奪フ豈如斯ノ理アラシヤ凡ソ法律ハ可成的細分シテ其利益ヲ區別セサルヲ得スト雖モ無益ノ區分ハ可成的止ムルニ若カサルナリ

或人荷芽刑法草案第三十八條ヲ解シテ曰ク繼續犯トハ一度行ヘハ多少ノ時間罰スヘキノ所爲間斷ナク一様ニ延蔓スル行爲ナリト是レ即チ繼續犯ノ正解ト謂フヘキホリ之ヲ約言セハ同一ノ目的ヲ以テ同一ノ所爲ヲナス間意思ノ繼續スルハ繼續犯ニシテ其目的同一ニ非ス其

意思亦間斷スルキハ繼續犯ニ非サルナリ斯ク區別スト雖ヒ利益ナシ
シテ徒ラニ分別スルハ余ノ欲セサル所ナリ故ニ下文ニ於テ其利益ヲ
説カントス

第一裁判上ノ利益 治罪法第一條ニ曰ク公訴ハ罪ヲ証明シ刑ヲ適用
スル云々ト此法文ニ依レハ如何ナル微罪ト雖ヒ必ス一々公訴セサル
ヲ得ス故ニ盜罪三犯殺人二犯姦罪四犯ヲナシタルモノアルハ總犯
罪九回ナルヲ以テ九公訴ヲ起サ、ルヲ得スト雖ヒ繼續犯ハ假令幾十
回幾百回ナルモ一罪トナシ一公訴ヲ以テ足レリトス

第二公訴期滿免除ノ利益 治罪法第十三條ニ曰ク公訴私訴期滿免除
ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算スト此法文ハ即時犯罪ニ適用スヘキト瞭
々タリ何トナレハ本條但書ニ曰ク繼續犯ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起
算ストアレバナリ尙一例ヲ設ケ之レカ明解ヲ爲サントス

爰ニ盜罪ヲ犯スモノアリ之レカ期滿免除ヲ起算スルハ其盜罪ヲ犯シ
終ルヤ直ニ起算スヘシ又明治十三年十月十五日ヨリ不法監禁ヲ爲シ
タルモノ明治十五年十月五日ニ發露シタリ之レカ期滿免除ヲ起算ス
ルハ明治十三年十月五日即チ着手ノ日ヨリセスシテ治罪法第十三條
但書云々ノ法文ニ依リ最終ノ日即チ明治十五年十月五日ヨリ起算ス
是レ即チ期滿免除ノ利益ナリ

第三國事犯常事犯ノ區別

或人曰ク從來我國ニ於テ政事ニ關スル犯罪ヲ稱シテ國事犯ト云ヒ否
ラサルモノヲ常事犯ト云ヒシカ此名稱甚タ不當ナリトス何トナレハ
國事犯ト汎稱シテハ其實廣キニ過キ又常事犯ト云フモ國事犯ノ反對
ナルヲ示スニ允穩ナラス彼ノ官物ヲ盜ミ又ハ貨幣ヲ偽造スルカ如キ
モ其害直ニ國家ニ關スルヲ以テ國事犯ト稱スヘキカ決シテ然ラサル

又常事犯ト云フトキハ單ニ一般人民ニ對スル犯罪ナルヲ以テ其實挾域ニ失ス故ニ政事犯非政事犯ノ名稱ノ允穩ナルヲ信スルナリト此說允當ナラン然レ國事犯ノ名稱モ敢テ不當ニ非ス又此國事犯ヲ除テ他ノ犯罪ヲ總稱シテ常事犯ト云フモ挾キニ非サルナリ然リ而シテ國事犯トハ如何ナルモノナルヤヲ講究セサル可ラス
 國事犯トハ國ニ對スル犯罪即チ一國ノ政府ヲ顛覆シ又ハ政權ヲ滅殺シ又ハ吾人ノ國憲ヨリ授與セラレタル權利ヲ妨害シ又ハ國ニ設ケタル人民ノ等級ヲ廢シ或ハ奉教ヲ禁シ或ハ言論集合印刷ノ自由等ヲ妨害スルモノ皆國事犯ナリ此犯罪ハ獨リ人民ノミナラス政府自ラ犯ス
 一アリ尙一步ヲ進メテ國事犯ハ如何ナル性質ヲ有シ又如何ナル理由ニ依テ常事犯ト區別スルヤヲ論ゼントス
 抑々一國政事ニ善アリ不善アリ輿論ニ向テ所人情ノ趣ク所ヲ察シ國

民ノ希望ヲ充シ人民ノ思想ニ適合スル法律規則ヲ設ケ政事ヲ行フモノハ善ニシテ且ツ正ナルモノナリ之レニ反シテ壓制暴虐ヲ以テ國民ヲ御セントスル者ハ不善ニシテ且ツ不正ナルモノナリ政事ノ善不善ハ即チ犯罪上正不正ノ分ル、所ナリ國民壓制暴虐ヲ蟬脫シテ社會ヲ泰山ノ安キニ置カント欲シ兵ヲ舉ケ政府ニ對抗スル者ハ道理上之ヲ不正トシテ惡ムヘシト謂フ可ラス然レ自己ノ嫉妬心或ハ私慾心ヨリ發シ兵ヲ舉グルモノハ不正且ツ惡ムヘキモノナリ其正不正ハ姑ク措テ論セス政府ヨリ見レキハ其政府ノ施政ハ正當適理ノモノタルヘシ故ニ之レニ向テ兵ヲ舉レバ其犯人ハ正意ナリト雖レ幾分ノ刑ヲ以テ罰セサルヲ得スギツ一氏嘗テ云ヘルアリ久遠ノ時機ヲ待テ社會ヲ改良セントスルコトナク急激ノ變革ヲ爲サント欲セハ當時ノ政府必ス大ニ不長クテサル可ラス又何人ト雖レ其變革ヲ要スルノ度ニ至ルモ其

政府不長ナリト断定スルヲ得スト那波翁又云ヘルアリ革命ハ天ヨリ地上ニ降ス所ノ大厄ナリ又之ヲ行フ者ノ禍ナリ革命ニ因テ得ル所ノ總利益ハ之ヲ企テタル者ノ爲メ被ルヘキ騷擾ヲ償フヲ得ス或ハ以テ貧人ヲ富マストアリト雖モ貧人尙足レリトセス全國紛擾萬物轉倒禍害アリテ福祉ナシト是ニ由テ之ヲ見ルモ犯者ノ目的ハ假令愛國心ヨリ起リタリト雖モ到底成文律上ニ於テハ罪人タルヲ免ル、不能ハス然モ自ラ他ノ犯罪ト其性質ヲ異ニスルハ照々トシテ夫レ明ナリ以下國事犯ノ死刑廢否及ヒ刑ノ差異並ビニ其待遇ノ異ナル理由ヲ論ス

余ハ斷シテ國事犯ノ死刑ハ効ナキモノトス果シテ効ナキモノハ宜シク廢スヘキナリト言ハントス抑々國事犯ナル者ハ國ノ組織ノ不長ナルヲ憂ヒ之ヲ改良セントスル所爲ニシテ他ノ犯罪ノ如ク時ト處トナ

擇ハス犯スモノニ非サルヲ以テ遠島ニ竄流シテ可ナリ遠島ニ竄流スル者ハ政治社會ト隔絶シテ自ラ其愛モ消滅シ而シテ其者倭改シテ良民トナリ又政府モ組織ヲ改革スルヲアレハ復テ國事犯ヲ起スノ憂ナキモノナリ加之其犯人ノ意思ハ愛國心ヨリ起リ惡ムヘキモノニ非レハナリ斯ク論シ來ルキハ或ハ云ハシ國ノ秩序ヲ擾乱シ大害ヲ遺シタル大罪人ナレハ死刑ニ處スルモ其罪償フニ足ラス何ソ犯人ノ意思如何ヲ問フニ及ハンヤト是レ復讐或ハ補償主義ヲ以テ犯人ヲ罰スルモノニシテ今日刑法學者ノ言フ可キ所ニ非ス固ヨリ論者ノ言フ如ク大罪ハ大罪ナリト雖モ愛國ノ情止ムヲ得ス其舉動アリタルモノニシテ盜罪或ハ殺人罪ノ如ク惡ム可キ私情ヨリ起リタルモノニ非ス且ツ死刑ヲ廢スルモ他ニ無期流刑及ヒ有期流刑等ノ如キ刑アリテ充分ニ犯人ヲ懲戒スルニ足ル看ヨヤ現ニ佛國ニ於テハ千八百四十八年國事犯

ノ死刑ヲ廢シタルモ更ニ害ナキニ非スヤ又輿論ヨリ推スモ何人ト雖
 是國事犯ト常事犯トヲ同一視ス可ラサルヲ知ル若シ之ヲ同一視シ同
 一刑ニ處スルキハ刑罰ノ其結果ヲ得ル能ハス何トナレハ惡ムヘキ常
 事犯ノ懲罰ヲシテ薄弱ナラシムルニ至レハナリ故ニ必ス國事犯ハ其
 死刑ヲ廢セサル可ラス(然レ能ク此理ヲ知ルト雖レ勢ヒ實施ス可ラサ
 ル場合アリ即チ本邦ノ如キ是レナラズ歟)又其刑ヲモ異ニシ寛大ナル
 刑ニ處セサル可ラス(刑法モ國事犯ト常事犯トハ刑ヲ異ニシ寛大ナル
 刑ニ處ス其點ハ尙法文ニ付テ詳論スヘシ)而シテ其待遇如何ヲ論セン
 ニ例ヘハ本邦人外國ニ於テ常事犯ヲナシ本邦ニ歸リ來リタル場合ニ
 於テ其外國ヨリ本邦ニ向テ犯人ノ引渡シヲ乞フキハ條約ニ從ヒ之ヲ
 引渡サハルヲ得スト雖レ國事犯ハ然ラス何故ニ斯ク引渡スト否トノ
 差異アリヤト問ハシニ外國ニ於テ盜罪又ハ姦罪等ヲ犯シタル者本邦

ニ來ルモ尙盜罪又ハ姦罪等ヲ犯スノ恐レアリテ社會ニ恐懼心ヲ生セ
 シム故ニ必ス之ヲ罰シ或ハ彼ノ請求ニ從ヒ引渡スナリ之レニ反シテ
 國事犯ハ然ラス例ヘハ米國人支那國ニ往キ支那政府ノ壓制ヲ憤リ其
 政府ヲ顛覆シテ共和政治ヲ設立セント企テ兵ヲ舉ケタレハ遂ニ失敗
 シテ米國ニ歸レリ米國ハ己ニ共和政体ナルヲ以テ復タ國事犯ヲナス
 ノ憂ナシ從テ社會ニ恐懼心ヲ起スナシ故ニ米國ニ於テハ其犯人ヲ
 罰スルヲナシ又支那政府ヨリ引渡シヲ要求スルモ之レニ應セサルナ
 リ又外人其國ニ對シ國事犯ヲ爲シテ我國ニ逃レ來レリ其政府ヨリ
 犯人ノ引渡ヲ求メリ此場合ニ於テ我政府之ヲ拒テ引渡サハルヲ得
 千八百七十一年佛國ニ徒黨蜂起シ遂ニ失敗シテドニシヤー及ヒス并
 ツルニ逃走セリ佛國政府ハ之レカ引渡シヲ兩國ニ向テ請求シタリシ
 カ兩國ハ之ヲ拒絕シ遂ニ引渡サス是レ則チ實例ナリ

爰ニ難問アリ國事犯ト常事犯トヲ混淆シテ犯シタルハ何レニ由リ罰スヘキヤ是レナリ余ハ佛國ノ實例ヲ舉ケ之ヲ決セントス

千八百四十八年佛國ニ於テ革命黨蜂起シタリキ此時佛政府ハ大將タアレーニ命シ之ヲ鎮撫セシム然ルニタアレーハ犯人ノ爲メニ殺サレタリ其後其黨ハ遂ニ捕ニ就キ皆死刑ニ處セラレタリ此時ニ當テ事常犯ノ死刑ハ尙存スルト雖ドモ國事犯ノ死刑ハ已ニ廢シタリキ然ルニ死刑ニ處セラレタルヲ以テ考フルトキハ常事犯トシテ罰シタルヤ明カナリ其理由二個アリ第一ハ徒ラニ人ヲ殺シタリ第二ハ政府ヨリ發遣シタル鎮撫使ニ對シ抗ス可ラサルハ歐洲一般ノ規則ナリ然ルニ鎮撫使タアレーヲ殺シタルニ由ル尙一例アリ佛國ニ於テリーヒリツプ及ヒニ世ナポレオンヲ殺サント企テタルモノアリ一ツハ人ヲ惡テ殺サントシ一ツハ政治ヲ愛ヒ之ヲ殺サント試ミタリ然レハ國事犯ト

ナルナリ然ルニ三世ナポレオンノ代ニハ已ニ國事犯ノ死刑ヲ廢シ常事犯ノミニ死刑ヲ存セリ故ニ國事犯トナスヤ常事犯トナスヤハ重大ナル關係ヲ有スルモノナルニ思拘テラス當時其犯人ヲ死刑ニ處シタリ是レ即チ國事犯ト常事犯トヲ比較シ常事犯ノ中ニ國事犯ヲ含有スルモノヲ謂フナリ

第四 特別犯普通犯ノ區別

トトラ氏曰ク自然ノ意義ニ從テ普通犯ト特別犯トノ字義ヲ解スルハ普通犯トハ何レノ時何レノ國ニ於テモ認メタル一般ノ義務ニ反スルモノヲ謂フ特別犯トハ時ト所トニ從テ變換スヘキ特別ノ義務ニ反スルモノヲ謂フヘキナリ今日一般ニ用ユル所ノ意義ニ從ラバハ刑法ニ記載シタル所ノ犯罪ヲ普通犯ト云ヒ特別ナル規則即チ森林法新聞條例銃獵規則川漁獵規則關稅規則等ニ係ル犯罪ヲ特別犯ト云フト余

尙一步ヲ進メ之レカ解釋ヲナスニ普通犯トハ何人ト雖何レノ時何レノ處ニ於テモ犯シ得ヘキ犯罪ヲ謂フ例ヘハ盜罪又ハ放火罪等ノ如キハ往古ヨリ貴賤ノ別ナク萬國ニ於テ之レヲ行ヘリ而シテ皆罪ト認メ罰シタリ特別犯ハ之レニ反シテ一般人何時何處ヲ論ゼス犯シ得ヘキモノニ非ス例ヘハ新聞條例ヲ犯サントスルモ新聞社ニ非レバ犯不能ハス代理人規則ノ如キハ代理人ニ非レバ犯スヲ得ズ虎烈刺病預防規則ノ如キハ該病流行中ニ非レバ犯ス能ハサル等ナリ

然レモ取除キテ場合アリ平人ニシテ軍律ヲ以テ罰セラル、トアリ軍律ハ特別法ナリ例ヘハ肖兵線内ニ於テ犯サラル犯罪ハ平人ト雖軍律ニ依リ罰セラル、ナリ到底以上ヲ約言セハ刑法外ニ於テ罰セラル者ハ皆特別犯罪ナリトス

斯ク區別スルノ利益ハ如何ナル點ニアルヤテハ氏嘗テ云スルヤ

此區別ノ利益ハ減等施行之際ニ當テ彼以特別法ニ記載ス處所以重罪ヲ刑法ニ記スル所ト重罪並全ク減等ノ例ヲ用テト雖輕罪及後發覺罪不如キハ唯其成條ニ於テ特ニ許可シタルモノニ非レハ減等ノ規則ヲ施用スルコト能ハサズ此說正解ニ謂フヤ

第五 現行犯非現行犯ノ區別

現行犯トハ佛語ニアリトフダラン云モラフヤ火多燃ヘ居ルニ義ナリゾリトハ犯罪ヲ謂フ故ニ犯罪者ヲ現場ニ於テ撞見シテルニ非レハ現行犯トナシテ得ズ治罪法第百條及第百一一條ヲ看ルニ非現行犯ハ多少ノ時間ヲ經過シテ發覺タル犯罪ヲ謂フ也

此區別ハ專ラ治罪法ニ關ス蓋現行犯ハ事實明白ニシテ且急速ヲ要スルモノナルヲ以テ其捕縛及ヒ豫審等ノ手續キニ至テモ非現行犯ト自ラ異ナレリ治罪法第百條以下第百六條第百一一條以下第百九

條及ヒ明治十四年第四十六号公布等參看然レモ獨リ治罪法ノモナラ
 大刑法ニモ亦大ニ關係ヲ有スル所アリ
 往古羅馬ニ於テハ現行犯ハ特更ニ重ク罰シ非現行犯ハ輕ク罰シタ
 ト雖モ法理漸ク開クルニ從テ此法遂ニ消滅シタリ又佛國ニ於テハ千
 八百六十五年現行犯ノ即決法ヲ設ケタリ又裁判所前ニ於テ犯罪ヲ犯シ
 タル者ヲ直ニ捕フルルハ民事裁判所ト雖モ直ニ裁判ヲ爲ス又上下
 院ノ議員ハ特權ヲ有スルモノナルヲ以テ非現行犯ノ場合ニ於テハ該
 院ノ許諾ヲ得ルニ非レハ縛スルヲ得スト雖モ現行犯ナルハ直ニ捕
 縛スルヲ得ルナリ然リ而シテ我國刑法中如何ナル關係ヲ有スルヤ
 ナ示サシ

現行犯ハ非レハ罰セサル法條アリ即チ第二百六十一條ニ曰ク財物ヲ
 賭シ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ云々ト此現ノ字アルヲ以テ現行犯ニ非

レハ刑法上問フヘキ犯罪ニ非サルヲ知ルニ足ル故ニ若シ現場ニ於テ
 撞見シタル者ニ非レハ賭博者隨意ノ自白アリト雖モ罰スヘキモノニ
 非ス
 余ハ己ニ犯罪ニ五個ノ區別アルヲ説キタリ斯ク區別シ來ルルハ或
 余恐ル彼ノ十個ノ犯罪ハ盡ク各種ノ性質ヲ有スルモノナレバト思慮
 タルモソアラシク故ニ聊カ注意ノ爲メ一言ヲ左ニ述フヘシ
 無意犯有意犯ハ何レノ犯罪中ニモ有ラサルヲ知ル但無意犯ノ場合
 甚ク稀レナリ即時犯ハ國事犯及ヒ繼續犯ヲ除クノ外皆含有ス繼續犯
 即時犯及ヒ現行犯ヲ除クノ外皆兼備國事犯ニ繼續犯普通犯現
 行犯ヲ兼ヌ常事犯國事犯特別犯ヲ除クノ外皆具有ス特別犯ハ即時
 犯繼續犯現行犯非現行犯ヲ含有ス普通犯ハ特別犯ヲ除クノ外總含
 以上ニ差罪質ハ畧述シタリ尙二三ノ例ヲ設ケテ之ヲ説明セシム

例之盜罪ヲ犯ス直ニ捕縛所ニ至ルモ若シ此犯人前區別中何レ
 一入ル可キヤ即チ有意犯常事犯普通犯即時犯ノ性質ヲ有シタル現
 行犯モ又例不ハ政府ヲ顛覆スルノ目的ヲ以テ内亂ヲ企テタル者
 遂ニ縛員就キタリ此犯人ハ如何即チ有意犯普通犯繼續犯外國事犯
 以テ其ノ區別ハ論終ハレ乃チ以テ不刑法ニ成文ニ據テ說明
 セメテスルニシテ其ノ區別ハ如何ニシテ之ヲ定ムルニシテ
 余成文論入ル以前則チ刑學本義ヲ說明セテ可ク刑ヲ本義ニ據テ國
 宗從各其義意ヲ異ニシテ本邦ニ付テ其起原ヲ討究スルニ刑ハ鑄形
 義ニシテ所謂勸善懲惡ナリト歐洲各國ノ採用スル意義ハ各國皆一
 義刑ニシテ其ノ義則チ亦同シク佛國源所謂トナシテ原義
 ハ如何ニシテ之ヲ轉シ來ルモ其ノ義則チ獨逸國大和皆佛國ノ其意

義ヲ同ラセリ其ノ一ニストハ苦痛ノ意義ヲ以テ之ヲ定ムルニシテ
 又他ノ一説即チローマンノ哲學者カロン氏曰ク刑ナル字ハ起原ハ
 チ一(目)方ノ義ヨリ來ル者ニシテ刑ニ處スルハ猶權衡ノ物ノ輕重ヲ量
 ルガ如ク各其所犯ノ狀情ト害惡ト輕重ニ從テ之ヲ科スルモ少ナリト
 夫レ如斯刑ノ義解異ナリト雖モ到底犯人ヲ罰スルヲ稱タシテ外ナ
 ス

第一編 總則

○本編ハ刑法全体ヲ統括スル所ノ總則ヲ載シタルモノナリ之ヲ
 一人身ニ譬ヘハ恰モ頭腦ノ如シ人トシテ頭腦ナキハ知覺精神ヲ失
 ヒ所謂白痴是レナリ白痴者如何ナル世用チナスヤ決シテ世用チ
 爲ス能ハス然レハ人ニシテ人ニ非テ刑法亦然リ若シ總則ナキハ
 ハ決シテ活動スルヲ能ハス故ニ曰ク刑法ノ頭腦ハ總則ナリト

第一章 法例

◎本章ハ即チ總則中第一着トシテ示サ、ルヲ得サル條件ニシテ
刑法ノ大原則ヲ示シタル法程例規ナリ

第一條 凡法律ニ於テ罰スヘキ罪分テ三種ト爲ス

一重罪

一輕罪

一違警罪

◎添條ハ刑ノ指級ヲ規定シタルモノニシテ重罪トシテ第七條ニ記
載シタル刑ヲ以テ罰シ違警罪トシ第九條ニ記載シタル刑ヲ以テ
罰スルヲ謂フ凡ソ法アリテ始メテ罪トナルモノニシテ罪アリテ後
子法アルモノニ非ス故ニ本條ハ罰スヘキ罪ヲ定メ其罪ハ即チ重
罪輕罪違警罪ナルコトヲ示ス是レ完全無瑕ナル法條ナリ白耳義

刑法第一條ニ曰ク凡ソ重罪律ヲ以テ論スヘキ者ハ皆重罪ナリ輕
罪律ヲ以テ論スヘキ者ハ皆輕罪ナリ違警罪律ヲ以テ罰スヘキ者
皆違警罪ナリト人アリ之ヲ評シテ曰ク斯ク記載スルハ重罪
ハ重罪ナリ輕罪ハ輕罪ナリ違警罪ハ違警罪ナリト云フニ異ナラ
ズシテ刑ノ如何ヲ示ス甚タ不完全ナリト此法ヲ見テ後本邦刑法
ノ益々完全ナルヲ知ル可シ
所爲ニ大スリ小アリ道義ヲ害スル亦厚薄アリ其所爲大ニシテ道
義ヲ損スル厚キハ重ク罰シ所爲小ニシテ道義ヲ害スル薄キハ輕
ク罰スルハ天理ノ然ラシムル所ニシテ怪ムニ足ラス故ニ必ス刑法
上ニ於テ刑ヲ千差萬別セサル可ラス此差別アルニモ拘ハラズ重
罪輕罪違警罪ノ三種ニ區別ヲ設クルハ如何ナル理由アルヤ是レ
即チ實施上ノ便益ニ基キタルモノナリ其區別ノ方法ニ於テハ各

國小差異ヲキテモ然ラスナレトシテ千八百六十八年ノ刑法草案第三條ニ曰ク法律ニ於テ死罪及ヒ四週間以上ノ自由權ヲ奪フニキテ諸刑又ハ五十歳以上ノ罰金處命ヲキテ所爲ヲ罰トシテ其他ノ罰大ニキテ所爲ヲ違式ト云フ此區別ヲ如キニ置キ得ルニ雖モ尙區別シテ輕重其刑ヲ異ニシテ或ハ佛國及ヒ伊國等ノ刑法ハ重罪輕罪違警罪ト三種ニ區別セ被レ其由來之ヲ觀シテ重罪輕罪之區別ヲ設クハ一般ノ定規ヲ有スルモノニ非ス但違警罪ハ特別ノ性質ヲ有シテ其法裁キ各國殆本國國法ニテ立法官ノ法學制ニ從テ知ルルニシテ雖モ又各國其區別大差ナキヲ以テ見レハ暗裏ニ其區別スルニキテ道理ヲ存スルヲ知ルルニキテリ

論者アリ曰ク斯ク犯罪ニ區別ヲ設クニ如何ク徵象ニ因リ如何ク

性質ニ基クヤ此點ニ於テハ更ニ法律上ノ釋義ヲ必要トス然レバ之レカ解釋ヲ爲スニ當テ犯罪ノ輕重ニ據ラサルヲ得ス其輕重ハ道義ト公益トニ照シテ害ノ輕重如何ヲ見ル可キナリ然レトモ道義上ノ惡ト社會上ノ公益ニ關スル惡トハ三ツナガラ今之ヲ名狀スルニキテ文字ヲ又之ヲ測ルニ道義上ノ惡ト其度量ヲ知ル由ナク故ニ立法官ハ裁判官ノ標準トナルハ其表ヲ製シテ以テ其輕重ヲ量ラシム然レモ權衡ヲ以テ物件ノ長短輕重ヲ量ルカ如クナラズ能ク立法官其大概ヲ示シ其分寸ヲ至テ其裁判官ノ權限ニ委テ然リ而テ斯ク三種ニ區別スルノ便益トハ即チ左ノ如シ

第一裁判管轄ヲ異ニシ(治罪法第三十八條參看)第二其管轄ヲ差異スルニ由リ訴訟手續キテ異ニス(治罪法第三百二十二條以下第四百九條參看)第三公訴期滿免除(治罪法第廿一條參看)

以上ハ治罪上ノ便益ニシテ刑法上ノ便益尙一アリ未遂犯ノ場合即チ是レナリ第百十三條參看此他違警罪ニ付テハ夥多ナル差違アリ此等ノ區別ハ實際上本條ノ關係ヲ有スルモノニテ尙詳細其成文ニ於テ論述スルニ至ラズ

第二條「法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所爲ト雖トモ之ヲ罰スルコト得ス」

○人類ノ所爲ニハ種々アリ罪トナルヘキ者アリ罪トナラサル者アリ其所爲ノ罪トスルハ否トハ法律上明記スルニ非ズ然レモ觸ルサルトモアリ故ニ本條ハ法律上明記シタル所爲ニ非レハ如何ナル惡所爲ニ雖モ罰スヘカネサレド示シタル法文ナリ而シテ本條及ヒ次條ニ於テ法律ノ字アリ此レハ現行公勿論將來頒布セラレ可キ法律ナモ蓄セリ

論者アリ曰ク凡ソ刑法上罪トシテ罰セントセハ預メ明文ヲ以テ之ヲ規定セサル可ラズト雖モ理論上ヨリ推論スル所ハ敢テ別ニ之ヲ志置カサルモ社會刑罰權ノ本質ヨリ敷衍シテ罰スルヲ得ルニキモ本條ノ抑々社會刑罰權ナルモノハ社會ヲ利害ニ係ル所トシテ小見テ罰カルト否ヲ決スル所定ナルモノナラズ如キハ明文ナクモ罰シテ可ナリト

然レモ本條ハ實ニ法律上欠ク可クナルモノナラズ固ヨリ人性ハ善ニシテ惡ヲ爲カサル可シト雖モ往々惡所爲ヲナスモノナリ是レ刑法ヲ必要ナル所以也然ルニ明文ヲ示シテ惡所爲ニ對シテ認定スル所以ニテ之ヲ罰スルキハ裁判官專恣橫斷以テ不法ヲ判決スル爲スモ人民何チ以テ其不幸ヲ鳴シ其不法ヲ訴フ斯ル場合ニ至レバ社會ハ自由權利ヲ害セラレ一日ニ其堵ヲ安スル可能ナラズ

シテ如何ナル威嚇ヲ起シ如何ナル恐懼心ヲ起スヤモ知ルベカラズ
 大ニテ此レハ是レ不教。其民ヲ罰スルニ非テヤ。抑々刑法ハ社會ノ安寧ヲ秩序トシテ保護スルモノナリ。社會ヲ擾
 乱スルモノモ非ス。而シテ其安ト乱トハ本條ノ有無ニ由リテ決ス
 ルナリ。故ニ本條ハ欠ク可ク西ル法條ト異ニシテ所以ナリ。又一方
 是リ看ルモ裁判官ハ法律ヲ左右スル權ヲ有シテ格言曰ク
 裁判官ハ法律ノ代言人ナリト又フオスタンエリ。氏云ヘルアリ
 裁判官ハ類似シタル事柄或ハ法律ノ効ニ據リ條令ヲ擴充スルヲ
 得スト。是レ即チ裁判官ハ法律ヲ左右シ得ヘカ。又其ノ明証ヲ
 第三條ニ法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及スルヲ得ス。若シ所犯頒布以前ニ在テ未ク判決ヲ經カル者ハ新舊ニ法ヲ此照
 照輕キニ從テ處斷ス。

○本條ト前條トハ殆ト同一ナル精神ヲ有ス。佛國刑法第四條ヲ見
 ルニ前條ト本條一項ハ明記ナシト雖。尙同條中ニ包含セリ。下チ
 混同ノ記載セリ。故チ人或チ前條ト本條トヲ合シテ効力ヲ顯ハス
 モ不ト云ス。リ。而シテ本條ニ如何ナル所爲ニ雖。法律頒布以前ニ
 於テモ新法ヲ明文ニ依リ處斷スルヲ得。大ニ大原則ニ規定
 シタルモノナリ。法理上必ズ然ラズ。其後チ得ス。前條ト本條ト
 凡ソ法律ハ國民一般ニ公示シテ然ル後ニ非テ之ヲ執行スルヤモ
 之ニ非ス。佛國民法第二條及ヒ全國刑法第四條參看。然ラ。罪ノ公
 目完全ナル契約ト思慮ス。結ビタル契約モ明日ハ無効トナリ。大ニ
 權利ヲ害スルニ至ル刑法亦然リ。今日善所爲トシテ安シテ爲シ
 然モノモ明日ハ惡所爲ト爲ル。罰セズ。然即チ法律ヲ最モ嫌惡
 然。不教ノ民ヲ罰ス。至ル斯所場合ニ至ル自由及ヒ名譽等

保存スルヲ能ハス法律ハ斯ル不正不理ヲ好ムモノニ非ス然レ治罪法第五條及ヒ第二十七條ニ於テ既往ニ及ホスヲ定メタリシカ治罪法ハ訴訟手續キニシテ既往ニ遡ルモ決シテ不[○]教ノ民ヲ罰シ或ハ既得ノ權利ヲ害スヘキ憂ナシ

第二項ハ前項ノ取除ケテ示シタル場合ナレモ亦前項ノ原則ニ從テ場合アリ例ニハ舊法施行中盜犯ヲ爲シ懲役一年ノ刑ヲ受クヘキモノアリ之ヲ新法ニ照シ禁錮六月ト爲シタルハ前項ノ原則ニ從テナリ又舊法ノ懲役一年ヲ新法ニテハ一年三月ト改正シタルハ本項ノ明文ニ從ヒ懲役一年即チ舊法ノ刑ヲ以テ罰スヘシ

又明治十三年ノ法律ニテ懲役七月ノ罪ヲ犯シ同十四年ニ至リ改正シテ懲役五月ト又同十五年ニ於テ又改正シテ懲役九月ト定メタル此時其犯人ヲ捕ヘタルハ何レノ刑ニ處テハキヤ即チ本項

ノ明文ニ從ヒ十四年ノ刑懲役五月ニ處ス可キナリ

新舊ヲ比照シテ輕重ヲ知ルニ曖昧ナルヲアリ試ミニ改定律例ヲ看ヨ竊盜贓金五十圓懲役一年トアリ新法即チ刑法第三百六十六條ニ於テ人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ禁錮トアリ之ヲ舊律ト比照スルニ最下限ヨリ看ルハ舊律ヲ重シトス又最上限ヨリ看ルハ舊法ヲ以テ輕シトス此場合ニ如何ホソナード氏ノ說ニ依レハ一方ヨリ短期ヲ取リ一方ヨリ長期ヲ取ルヘシト(此說ハ新舊共ニ長期短期アル場合ヲ比照スルノ說ニシテ余カ舉ケタル例トハ較ヤ刑期ニ差違アレトモ其旨趣ハ異ナルニ非ス)然レ此說ハ裁判官ノ爲シ得ヘキヲニ非ス何トナレハ新舊法ヲ比照シテ一種刑期ヲ作爲スレハ立法權ヲ侵害スレハナリ然レ政府ハ明治十四年第八十一号公布ヲ以テ右ノ

説ノ如ク比照スルニ知テ裁判官ニ委任セラレタラス久政府ヨリ
 裁判官ニ向テ刑期ヲ作為ス可キ下ヲ委テタル以上ハ此比照法ニ
 從ヒ處分セサル可カラス
 何夫以テ斯ク比照スルニ輕キニ從フヤ三箇ノ理由アリ
 第一 刑法ヲ改正スルノ目的ハ其法律ノ人情風俗ニ適セス若ク
 ハ法文ノ蛇足ニ屬スルモノヲ取テ之ヲ廢シ之ヲ改ムルニアルナ
 リ然ルニ舊法施行中ノ所犯ナルヲ以テ尙舊法ニ照シ罰スルキハ
 法律ハ非テ遂クルニ當リ更ニ其改良ノ効ヲ見サルナリ
 第二 舊法ノ寛ナルヲ知リテ犯罪ヲナシタリ其後新法ヲ以テ嚴
 ニセリ此犯人ハ舊法ノ寛ナルヲ知リテ未タ新法ノ嚴ナルヲ知ラ
 ズ然ルニ新法ノ嚴キ以テ罰スルキハ是レ不救ノ民ヲ罰スル也
 第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ス可キ者ニ適用スル

トテ得ス

○本條ハ軍人軍屬軍律ヲ犯シタルキハ軍律ヲ以テ罰ス故ニ此刑
 法ヲ以テ罰スルヲ得スト云フニ在リ然レ軍人軍屬ニシテ常律ヲ
 犯シタルキハ常律即チ此刑法ヲ以テ罰ス常人ト雖レ軍律ヲ犯シ
 タルキハ亦軍律ヲ以テ罰セラル可シ
 前ニ論シタルカ如ク常律ハ大概寛ナリ之レニ反シ軍律ハ嚴ナリ
 律己ニ異ナリ裁判所亦異ナレリ軍事犯ハ陸海軍裁判所ニ於テシ
 常事犯ハ司法裁判所ニ於テ判決ヲナス故ニ同一視ス可キ也
 第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ其法律
 規則ニ從フ
 若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケサル者ハ此刑法ノ總則ニ從フ
 ○第二條ノ反對ヨリ解釋ヲ下スルキニ此刑法ニ明文アルモノハ

必ス罰セサルヲ得ス又明文ニ從ヒ罰スルハ至當ナリ縱令此刑法ニ明文ナシト雖モ他ノ法律規則即チ出版條例海關稅規則銀行條例郵便規則米商會所規則度量衡規則等ニ明文アルモノハ此等ノ規則ニ從テ罰スルハ亦當チ得タルモノト謂フ可キナリ

何チ以テ此等諸規則ヲ刑法上ニ記載セサルカト云フニ刑法ハ全國一般ニ關スル所ノ大法典ニシテ容易ニ變更ス可ラサルモノナリ出版條例等ノ諸規則ハ或ハ一時或ハ一部分ノ人民ノ遵守ス可キモノニシテ時々變更セサルヲ得カルヲアリ夫レ如斯其性質及ヒ用法ノ差アルヲ以テ刑法中ニ記載スヘキモノニ非ス若シ記載スルキハ刑法常ニ變動シテ人民之ヲ信セス爲メニ社會ノ安寧ヲ害スルニ至ル故ニ諸規則ハ刑法中ニ記載セスニテ互ニ其性質及ヒ其法用ヲ全フセシムルノ簡且ツ便ナルニ若カス

第二項 若シ他ノ法律規則ニ總則ヲ擧ケタル場合ニハ其總則ニ從フニ當然ナリト雖モ此等ノ諸規則ニ盡ク總則ヲ擧ケルニ難キヲ以テ大概總則ヲ示サス故ニ此總則ニ從ハシム若シ然ラサルキハ其無律規則ニ明條ナキモ處斷ヲ行ヒ若シハ既往ノ事ヲモ處分スル等ノ場合ナキニシモ非ス然レハ此總則ニ從ハシムルハ是レ亦自由ヲ重シ名譽ヲ貴フノ精神ニシテ能ク刑法ノ目的ニ適合シタル法條ト謂フ可シ

第二章 刑例

第一節 刑名

○刑例トハ刑ノ科目及ヒ其他ノ處分ニ關スル刑罰ノ條例ヲ謂フ而シテ本章第八節ニ區別シテ即チ第一刑名第二主刑處分第三附加刑處分第四徵償處分第五刑期計算第六假出獄第七期滿免除

第八復權ナリ

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス
主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ宣告スル者ト宣告セサル者トナ定ム

○本條ハ刑法中主刑及ヒ附加刑ノ二種アルヲ示シタリ主刑ハ第七條第八條第九條ノ刑ヲ謂フ附加刑ハ第十條ノ刑ヲ以テ主刑ノ附加トシテ科スルモノヲ謂フ而シテ主刑ト附加刑トハ自ラ其性質ヲ異ニシ亦其用方ヲ差ヘリ

第一項 主刑ハ必ス宣告シ且ツ其宣告文中ニ刑名ヲ記載セサル可ラス若シ裁判宣告ヲ爲サルキハ犯人ハ如何ナル刑ヲ受ケンカ又刑法ハ如何ナル効力ヲ顯ハセシカ之ヲ知ルニ由チキナリ凡ソ刑ハ裁判官之ヲ宣告シテ其刑ニ服セシメ始メテ刑法ノ効ヲ顯ハ

スモノナリ故ニ本項ハ亦欠ク可ラサル法條ナリ

第二項 凡ソ物ハ主アリテ從アルモノナリ附加刑亦然リ己ニ主刑ノ宣告ヲ受ケタルキハ當然之ヲ附加スルコト恰モ物ノ影ニ於ケルカ如シ第三十二條第三十五條第三十七條及ヒ第三十九條是レ即チ當然附加スヘキ刑ナリ又法律ニ於テ宣告スヘキ刑ト定メタルキハ必ス宣告スルニ非レバ之ヲ附加ス可ラス即チ第四十二條第四十三條是レナリ其附加刑ノ質性及ヒ用法ニ於テハ各少差異アリ尙ホ各本條ニ就テ論究スヘシ

凡ソ刑ハ自體ニ關スルアリ財産ニ關スルアリ又名譽ニ關スルアリ直接ニ受ケル刑多クハ身軀ニアリ然レ此刑ノミチ科シ尙不足ナル場合アリ故ニ之レニ名譽ニ關スル刑或ハ財産ニ關スル刑ヲ附加シ其犯人ノ情狀ニ由リ大ニ感觸ヲ起サシメ之ヲ懲戒スルナ

リ而シテ重罪犯ノ附加刑ハ總テ宣告セザルハ蓋シ重罪ハ必ス附加スルキ性質ナリ輕罪ハ之レニ反シテ附加スルキ性質ノ者アリ否ラサル者アリ故ニ亦宣告スルト否ラサルトノ差アル所以ナリ

- 第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑トス
- 一 死刑
- 二 無期徒刑
- 三 有期徒刑
- 四 無期徒刑
- 五 有期徒刑
- 六 重懲役
- 七 輕懲役
- 八 重禁獄

九 輕禁獄

○本條ハ重罪ノ主刑ニシテ即チ身体ニ施ス所ノ刑ナリ本編第一條ニ於テ刑ニ三種アルヲ示セシカ本條ハ即チ第一條一項重罪ノ刑如何ナルヲ知ラシム而シテ此刑ハ如何ナル犯人ニ適施スルヤハ第三編第三編ニ於テ記載セリ

本條ニ別テ二種トス即チ分テ得ヘキ刑ト分テ得ヘカラサル刑トス死刑無期徒刑ハ分テ得ヘカラサル刑ナリ例ハ一旦死刑ニ處セラレタル者ハ復タ生存スルヲ得ス無期徒刑ノ如キハ終身刑ナルヲ以テ其刑期ヲ伸縮スルヲ得ス分テ得ヘキ刑ハ有期徒刑流刑懲役禁獄トス是等ハ皆有期刑ナルヲ以テ刑期ヲ幾等ニモ分テ科スルヲ得ルナリ又本條ノ刑ヲ再別シテ國事犯ノ刑ト常事犯ノ刑トス國事犯ノ刑ハ死刑流刑禁獄トス常事犯ノ刑ハ死刑徒刑懲

役トス

本條ヲ一見スルキハ第一ヨリ第九迄ノ順序ヲ以テ加減スルカ如クナレヒ決シテ然ラス是レ即チ國事犯ノ刑ト常事犯ノ刑トノ差アル所以ニシテ加減ハ第六十七條及ヒ第六十八條ノ規則ニ從ハサルヲ得ス

本條第一ヨリ第九迄ノ刑ハ第十二條以下ニ於テ記載セルヲ以テ尙各本條ニ就キ説明スヘシ

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

- 一 重禁錮
- 二 輕禁錮
- 三 罰金

○本條亦第一條二項ノ輕罪刑ヲ示シタルモノナリ其適施ス可キ

罪目ハ第二編第三編ニ記載セリ

本條ノ刑ハ皆有期刑ニシテ罰金ノミハ一時刑ニ謂フヘシ前條ハ身体ニ施スヘキ刑ニシテ本條ハ身体ニ施スヘキ刑アリ禁錮是レナリ財産ニ及スヘキ刑アリ罰金はレナリ禁錮ハ十一日以上五年以下ノ刑ニシテ罰金ハ二圓以上トス而シテ國事犯ノ刑ト常事犯ノ刑トアリ輕禁錮ハ專ラ國事犯ノミノ刑ニハ非レヒ多クハ國事犯ニ適施ス重禁錮罰金ハ常事犯ノ刑ナリ尙第二十四條以下ニ於テ詳説スヘシ

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑トス

- 一 拘留
- 二 科料

○本條亦第一條三項ニ示シタル違警罪ノ刑ナリ其罪科ハ第四編

ニ明記セリ

抑違警罪ハ前ニ述ヘタルカ如ク他ノ犯罪トハ較ヤ其性質ヲ異ニシ社會ヲ害スル極メテ少シ故ニ其刑亦輕シ即チ一日以上十日以下ノ拘留又ハ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ヲ以テ罰シ他ニ附加スヘキ刑ナク唯第四十三條一二三ノ場合ニ記シタル物件ヲ所有スル者ハ附加刑トシテ沒收セラハナリ

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

- 一 剝奪公權
- 二 停止公權
- 三 禁治産
- 四 監視
- 五 罰金

六 沒收

○第六條ニ於テ刑ハ主刑ト附加刑トノ二種アルヲ記載セリ前三條ハ主刑ニシテ本條ハ附加刑ナリ而シテ前三條ハ多クハ身体ニ施ス所ノ刑ニシテ本條ハ多クハ名譽及ヒ自由權利ニ關シ又ハ財産ニ關ス剝奪公權、停止公權、禁治産、監視、名譽及ヒ權利ニ關シ罰金沒收、ハ財産ニ關スル刑ナリ

本條ノ刑ハ重罪ニ附加スルアリ輕罪ニ附加スルアリ又違警罪ニモ附加スルアリ其重罪ニ附加ス可キ刑ハ即チ剝奪公權、禁治産、監視、沒收、ナリ輕罪ニ附加ス可キ刑ハ停止公權、監視、沒收、罰金、ナリ違警罪ニ附加スルハ沒收ノミ

剝奪公權トハ第二十一條ニ記シタル國民固有ノ權利ヲ剝奪スルヲ謂フ停止公權トハ第三十三條第三十四條ニ記シタルカ如ク刑期間及

ヒ監視ノ期限間公權ヲ行フヲ停止スルヲ謂フ
禁治産トハ第三十五條ニ記シタルカ如ク刑期間自ラ財産ヲ理ス
ルヲ禁スルヲ謂フ

監視トハ犯人ノ行狀如何ヲ監察スルヲ謂フ監視ニ二種アリ一般
監視特別監視是レナリ一般監視ハ刑期滿限ノ日及ヒ死刑無刑期
ノ者期滿免除ヲ得タル日ヨリ當然監視ニ附スルナリ特別監視ハ
假出獄ノ者ヲ監視スルナリ而シテ特別監視ノ方法ハ一般監視ト
ハ大ニ差異アリ(刑法附則參看)

罰金ハ輕罪ノ附加刑ニシテ宣告スヘキモノナリ但主刑ニモ亦罰
金アリ混スル勿レ

沒收ハ犯人第四十三條ニ記載シタル物件ヲ所有シタルト宣告シ
テ之ヲ官ニ取リ上クルナリ

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以
テ之ヲ定ム

○此條ハ總テ刑ノ宣告ヲ受ケタル犯人ニ對シ其宣告セラレタル
刑ヲ執行シ及ヒ取締ヲ爲ス方法細目ハ別段ナル規則(監獄則等)ヲ
以テ規定スヘシト云フコアリ

本條ヲ解スルロハ司刑權ト行政權トノ區別ヲ明瞭ナラシムルヲ
要ス司法權ハ犯人ヲ刑法ニ照シ罰スルニ止マリテ其執行及ヒ取
締ノ規則ヲ制定スルハ行政權ノ任トスル所ナリ然レハ行政規則
ヲ刑法中ニ編入ス可ラサルヤ明ナリ

第二節 主刑處分

○此節ハ第六條ニ示シタル主刑ノ處分法ヲ記載シタルモノナリ
第十二條 死刑ハ絞首ス但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ

之ヲ行フ

○死刑ハ刑法中最重ノ刑ニシテ犯人ノ性命ヲ奪フナリ
 死刑ハ古來種々ナル區別アリ各國大概苛酷ナル方法ヲ用ヒタリ
 ト雖モ即今ハ各國多クハ死刑ノ階級ヲ廢シ絞或ハ斬ノミヲ用ユ
 本邦ニ於テモ往古ヨリ種々ナル階級ヲ設ケ殘酷ナル方法ヲ以テ
 罰シタリ近クハ新律綱領ニモ梟斬絞ノ階級ヲ設ケタリシカ此刑
 法ヲ以テ此階級ヲ廢シ唯絞一アルノミ是レ死刑ノ改良ト謂フヘ
 キナリ何ヲ以テ死刑ノ改良ト云フノ死ハ一ツナリ斬ヲ以テスル
 モ絞ヲ以テスルモ主要其犯人ノ性命ヲ奪フニアレハ殘酷見ルニ
 忍ヒサル刑ヲ以テス可ラス殘酷ヲ以テ罰スルモ社會ニ對シ標準
 ナナルノ効ヲ増大ナラシムルモノニ非ス反テ刑ノ嚴ニ慣レ大ニ
 刑ノ効ヲ減殺スルニ至ルヘキナリ又犯人ノ親屬故舊ニ於テ身首

其處ヲ異ニスルト身體依然トシテ恰モ病死セシカ如キ遺屍ヲ見
 ルニ當テ如何ナル感情ヲ起スヤ必ス斬罪其悲哀ヲ増サシムヘシ
 夫レ然リ然レハ死刑ハ絞首ヲ以テスルノ善且ツ良ナルニ若カス
 又之レカ執行ヲ公衆ニ縱覽ヲ許スルハ社會ハ其慘狀ニ慣レ是レ
 亦遂ニ刑ノ効ヲ減殺スルニ至ル故ニ獄内ニ於テ別段ナル規則監
 獄則等ニ定メタル官吏臨場檢視シテ之ヲ執行ス本邦往古ヨリ公
 衆ヲシテ死刑ヲ縱覽セシメシハ甚ク其當ヲ得テ例國ノ如キモ市
 法ニ於テ公衆ノ縱覽ヲ許シテ死刑ヲ執行セシカ即今ハ味且之ヲ
 執行ス法律ノ進歩以テ知ルヘシ

古來歐洲各國ニ於テハ死刑廢スヘキヤ否ヤニ付種々ナル說アリ
 今一二ノ說ヲ掲ケ而シテ後本邦亦死刑廢スヘキ否ヤヲ論セント
 ス

一説ニ曰ク造物者ノ人ヲ造生スルヤ各人同等ナル權利ヲ賦與シ
 決シテ偏重偏輕アルモノニ非ス此同等ナル權利ヲ有セル人ニシ
 テ裁判法トテ慘酷ナル死刑ヲ設クルノ理アラシヤ
 二説ニ曰ク死刑ヲ以テ犯人ヲ滅少スルニ足ラス故ニ殘酷ナル死
 刑ハ廢止スヘシ
 三説ニ曰ク一國ヲ成スハ恰モ一會社ヲ結成スルカ如シ結社シタ
 ル故ニ之ヲ統括セシムルカ爲メ政府ヲ設立シタルモノナレハ政
 府ト雖モ決シテ人民ニ優リタル權利ヲ有スルモノニ非ス然レハ
 吾人ニシテ人ヲ殺スノ權利ヲ有セサルヲ以テ政府モ亦其權利ナ
 シ
 論者ノ説或ハ當レリ然モ古人云ヘルアリ凡ソ一國ノ風俗人情ニ
 從ヒ其須要ニ因リ建設スル所ノ政体ニシテ之レト適合スルモノ

皆正當ナリト而シテ刑ハ公益ト精義トニ基キ社會ニ必要ナルニ
 非レハ直チニ之ヲ用ユルヲ得ス死刑廢スヘキヤ否ヤモ此點ニ就
 キ論及スルヲ必要トス

熟々本邦ノ時勢ヲ察スルニ未タ廢スヘキ時機到ラス刑法ハ人情
 風俗ニ從ヒ輕重スルモノニシテ輕重其度ヲ失フトハ決シテ刑法
 ノ必要ナルヲ知ラス故ニ理論ハ姑ク措キ單ニ政略上未タ廢ス可
 ラストス

然モ近年歐州大陸ニハ廢死刑論大ニ勢力ヲ得タリ英國千八百六
 十一年ノ法律ニ據ルニ謀殺ノ外死刑ヲ行フヲ廢シ葡芽噠嗎瑞西
 等ニハ死刑ヲ廢シ白耳義三州ノ内二州ハ實際死刑ヲ行フヲナシ
佛國ニ於テハ千八百三十二年法律ヲ改正シテ死刑中九個ノ罪科
 ヲ廢シタリ

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルコ非レハ之ヲ行フヲ得ス

○死刑ハ分テ得ヘキ刑ニ非ス又償フヘキ刑ニ非ス一旦其刑ヲ執行シタルハ復タ生存スルヲ得ス故ニ懇切ニ吟味シ誤ナキヲ保シテ之ヲ執行セサルヘカラス加之死刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ大赦ヲ以テ死ヲ減セラルベトアリ又ハ檢察官及ヒ監獄長ヨリ司法卿ニ其情狀ヲ具申シ司法卿之ヲ奏上シテ特赦ヲ請願スルコトアリ(治罪法第四百七十七八條參看)故ニ司法卿ノ命令ヲ待テ執行セサルハ其赦アルヤ否ヤヲ知ルヲ得ス若シ執行シタル後赦アリタルハ其厚賜モ烏有ニ歸ス被刑人ノ不幸云フ可ラス故ニ本條斯ク規定シタルナリ

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス

○總テ祝日祭日ニハ死刑ヲ行フコトヲ禁ス大祀トハ大嘗會ヲ謂フ

(大祀トハ元始祭神嘗祭新嘗祭大坂等ヲ謂フトノ説アリ余ハ之ヲ取ラス)令節トハ紀元節天長節等ヲ謂フ國祭トハ元始祭春秋皇靈祭等ヲ謂フ刑法附則ニ依レハ死刑執行禁止ノ日即チ元始祭孝明天皇祭紀元節春秋二季皇靈祭仁孝天皇祭神武天皇祭六月大坂神宮神嘗祭天長節後桃園天皇祭新嘗祭光格天皇祭十二月大坂ナリ

以上皆國民ノ祝日トシテ慶賀シ又ハ祭日トシテ齋敬スヘキ日ナリ故ニ殘酷ナル死刑ヲ行ヒ哀悼セシムルヲ欲セサルナリ格言ニ曰ク日曜日ハ法律上ノ日ニ非スト蓋シ歐洲大陸皆耶穌教ヲ奉セリ日曜日ハ耶穌降生ノ日ナルヲ以テ國民皆歡樂ヲ極メ尊敬ヲ盡ス故ニ刑ヲ行フノ日ニ非スト云フノ意ナリ本條此格言ト同一ナル精神ナリ而シテ本條ニ死刑ノミヲ示シ他ノ刑ニ及ハサルハ如

何ノ他ノ刑ハ祭日ニ當リ執行スルモ死刑ノ如キ哀悼スルモノニ非ス又刑期中ノ者ハ其執行ヲ停止スルヲ得サルヲ以テナリ

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懐胎ナル時ハ其執行ヲ停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非レハ刑ヲ行ハス

○死刑ニ處セラル可キ婦女懐胎ナルヲ申立テタルキハ醫師穩婆ヲシテ診察セシメ果シテ懐胎ナルキハ其執行ヲ分娩ノ後一百日迄延期スルコトナリ

本條ハ即チ刑ハ一身ニ止マルト云フ原則ヨリ淵原シタルナリ胎婦ハ罪アリテ己ニ死刑ノ宣告ヲ受ケタリト雖モ其腹中ノ兒子ハ無罪ニシテ殺スヘキ理ナシ然ルニ胎婦ヲ死刑ニ處スルキハ其兒子ヲ并セテ刑スルナリ故ニ兒子ノ爲メ死刑執行ヲ分娩ノ後一百日迄停止ス何ヲ以テ分娩後直ニ其刑ヲ執行セサルカ若シ然ルキ

ハ兒子生育スル能ハス分娩後凡ソ一百日ヲ經レハ其兒子稍生長シテ養育シ易キカ故ナリ

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但式ヲ用ヒテ葬ルコトヲ許サス

○死刑者ノ遺骸ヲ請フモノナキハ政府ニ於テ埋葬セサルヲ得ス故ニ親屬故舊等ノ如キ縁故舊情アル者ヨリ請フキハ其請ヲ許シ遺骸ヲ下付スルハ當然ナリ然モ大罪人ノ遺骸ナルカ故ニ式ヲ用ヒテ埋葬スルヲ許サス
本條但書式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サストアリ論者之ヲ論シテ曰ク凡ソ刑法ハ社會ニ生存スル者ニ向テ制裁ヲ加フルモノニシテ死者ニ制裁ヲ爲スヘキモノニ非ス若シ尙制裁ヲ加フヘキモノトスレバ何ヲ以テ他ノ受刑人刑期中死去シタル者ニ及ホサレヤ他ノ

罪大モ死刑モ同シ以是罪人ニシテ唯罪ニ大小アリ刑ニ輕重ノ
 差異アルノミ己ニ此差異アリト雖相同シク是レ遺骸ナレハ何ソ
 生前害惡ノ大小ヲ以テ之レカ葬送ヲ區別スルノ理アラシヤ殊ニ
 國事犯ノ死刑者モ亦本條ノ明文ニ從フヤ際々タリ試ミニ國事犯
 ノ死刑人ト常事犯ノ無期徒刑人トヲ比較スルニ社會ヲ害スル或
 ハ國事犯ヲ以テ大ナリト爲スモ常事犯ノ害ヲ社會ニ流スヤ國事犯
 ニ讓ラヌ否國事犯ノ右ニ出ツル萬々タリ其レ斯國事犯ノ死刑者
 ト常事犯ノ無期徒刑トヲ比スルニ常事犯ノ無期徒刑人ノ大惡ナ
 ル知ル可ナリ然ルニ一ツハ之レカ葬送ニ制裁ヲ加ヘ一ツハ自由
 ニ任スルハ輕重其度ヲ失スルニ非ル歟或ハ若シ死刑者ノ遺骸ニ
 シテ盛大ナル儀式ヲ用ヒ以テ之ヲ葬ルカ如キコトアルキハ自然法
 律ヲ輕侮スルノ狀ナキ能ハス從テ多少ノ弊害ヲ生スルヤモ知リ

難キヲ恐レテハ其レ然レ法律ハ已ニ犯人ノ刑ニ處シテ然レハ
 法律ノ目的ヲ遂クタル方以故ニ犯人ハ如何ナル儀式ヲ行フモ決
 シテ法律ニ影響ヲ及ホスコトナキヲ信スト此說亦理アリトス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分ク島地ニ發遣シ定役ニ服ス
 有期徒刑ハ十二年以上五年以下ト爲ス

○徒刑ニ處セラレタル者ハ無期有期ヲ分ク行政上定メタル島
 地ニ發遣シテ其役ニ服スルモ現今ハ北海道ニ發遣シ開拓ノ業ニ
 從事セシム徒刑ニ死刑ニ次ギタル重罪ナルヲ以テ佛國ニ於テハ
 無期徒刑ニ處セラレタルモノニハ當然准死ノ刑ヲ附加セラレタリ
 キ然レ甚タ不正ナルヲ以テ千八百五十二年法律改正ノ際之ヲ廢
 シタル斯ル重罪犯ニ島地ニ發遣スルモ三個ノ理由アリ
 第一若シ内地ニ置キテ逃亡復々社會ヲ害スルモ圖ル可ク

大然ルニ島地ニ發遣スル者ハ逃亡シテ復テ盜罪等ヲ犯ホントス
ルモ殆ト無人郷ノ如クナル者以テ其目的ヲ遂クルヲ得ス又内地
ニ歸ラントスルモ歸ルニ能ハス自然逃亡ノ念慮ヲ消散シ漸々懲
戒ノ効ヲ奏ス

第二、斯ル重罪犯ヲ内地ニ置クキハ社會ハ其逃亡シテ復テ害ヲ
爲サンコトヲ憂ヒ安堵セス且ツ他ノ標準モ島地ニ發遣スルヲ効ア
リトス

第三、遠島ニ於テ開拓等ノ如キ至難ノ役ニ服スルハ平人ノ好マ
サル所ナリ故ニ犯人ヲシテ此役ニ服セシムルキハ懲戒トナリ事
業モ自然ニ進歩スルコトヲ期スルニ在リ
刑法中總テノ刑期ハ一日以テ十五年以下トナシ其區域内ニ於テ
又區別ニ異名同刑ヲ設テ防キタル試法ニ佛國刑法ヲ看ルニ有期

懲役刑ハ五年以上十年以下又懲役刑ハ五年以上十年ト定メ

左記異名同刑ヲ免ルニ能ハス然レハ徒刑ト云ヒ懲

役在法ヲモ何ノ區別アラシヤ唯徒刑ハ島地ニ發遣スルト懲役ハ

内地ニ置クニシテ差アルニ是レ甚テ不權衡ナル法律ニ非スヤ我

刑法ハ此憂ヲ除ク有期徒刑最下限ヲ十二年トシ懲役刑最上限

ヲ十二年トナシ儻然區別ヲ與ヘテ獨リ有期徒刑ト懲役刑トニ

シテ大以下皆然ナリ

本條最上限ヲ十五年ト定メタルハ其當ヲ得タリト謂フヘシ何ト

ナレハ刑法草案第二十二條ノ如ク最上限ヲ二十年ト定ムルキハ

殆ト無期刑ト混同シ反テ犯人ヲ懲戒スルヲ得ルベシナリ

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セズ内地ニ懲役場ニ於テ定役ニ

服ス

○婦女ハ天性柔弱ナルモノニシテ男子ト同服セシムルヲ能ハス
又前條ノ如キ憂死ル甚ク稀ナリ故ニ無期有期ヲ分テ内地ノ
懲役場ニ入レ其後ニ服セシム是レ全ク恩典ニ出ルナリ

第十九條 徒刑ヲ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免レ其体力相當
ノ定役ニ服ス

○凡ソ歳已ニ六十歳ニ滿レハ大概身体衰弱シ氣力亦乏シシテ壯
年輩ノ比ニ非ス故ニ法律ニ恩典ヲ與ヘ六十歳ニ滿ルキハ至難ノ
役ヲ免シ体力相當ナル役ニ服セシム而シテ徒刑ニ處セラレ已ニ
服役中ノ囚人ハ固ヨリ論テ刑名宣告ノ日已ニ六十歳ニ滿ル者
モ亦然リ

第二十條 流刑ニ無期有期ヲ分テ島地ニ獄ニ幽閉シ定役ニ服セシ
有期流刑ハ十二年以上十五年以下ヲ爲ス

○本條然國事犯ノ刑ニシテ常事犯ニ徒刑ト輕重相匹敵ス故ニ刑
期及島地ニ發遣スルヲ第十七條ト同一ナリトス而シテ第十七

條本條ノ差異ハ左ノ二點在リトス
第一第十七條ハ至難ノ役ニ服セシレム本條ハ獄ニ幽閉スルノ

ニシテ定役ニ服スルコトナシ是レ即チ國事犯ノ寛ナル所以ナリ
第二第十七條ハ服役セシムルヲ以テ第十八條第十九條ノ如キ

取除之法アリト雖本條ハ服役セサルヲ以テ老壯男女ヲ區別ス
ルコトナシ

又第十七條ト本條トハ其精神ニ於テ較ヤ差異アリ本條中ニハ第
十七條ニ於テ説明セタル理由ヲ抱合スルハ勿論ナリト雖專ラ

政治社會ヲ退去シ政治ノ思想ヲ消滅セシムルト殘黨再舉ノ念ヲ
斷絶セシムルコトアリ尙一ツノ差異アリ次條是レナリ

第二十二條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以テ幽閉
ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限り居住セシムルヲ得
有期流刑ヲ囚三年ヲ經過スル者亦同シ

○本條ハ第五十三條ト同一ナル精神ニシテ其結果ハ大ニ異ナリ
(第五十四五條參看)是レ亦寛ニ國事犯ヲ遇スル所以ナリ其レ然リ
故ニ犯人獄則チ謹守シ已ニ悔悟ノ狀アリト見ル時行政ノ特權
ヲ以テ島内ノ地ヲ限リ其地内ニ於テ自由ニ居住セシメ且ツ禁治
産ノ幾分ヲ免シテ産ヲ營シム(第六條及第三十六條參看)而シテ
此事蓋シ行政ノ處分ニ出ツル地ニシテ犯人己ニ悔悟シ本條ノ
期限ヲ經過シ遂ニ後猶幽閉ヲ免サハルモ犯人自ラ之ヲ請求スル
得ルヲ得ルニシテ是レハ第一ノ特權トシテ第一ノ特權トシテ
幽閉免除期限ヲ五年ト三年ト區別シタルハ罪ノ大小アリ刑

○輕重ヲ以テ其恩典ヲ施スニ遲速スラシムルナリ
第二十三條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十歳ニ滿ル
者ハ第十九條ノ例ニ從フ
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト爲ス
○懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服セシム而シテ重輕ノ差ハ
只刑期ノ長短ニヨルニシテ其ノ他ニシテ差ハ無クシテ
懲役刑ハ六年以上十一年以下トシ之ヲ分別シテ重懲役ヲ九年以
上十一年以下トシ輕懲役ヲ六年以上八年以下ト定ム而シテ懲役
ノ定役ハ徒刑ノ如キ至難ノ役ニハアテサレトモ老人ヲシテ壯年輩
同等ナル役ニ服セシムルコト忍ヒス乃チ法律ハ亦恩典ヲ施ス
第十九條ニ異ナルヲナシ
第二十三條 禁獄ハ内地ニ獄ニ入レ定役ニ服セス

重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト爲ス

○本條亦國事犯ニ科スヘキ刑ニシテ前條トノ區別及ヒ同一ナル點ハ第十八條ノ第二十條ニ於ケルカ如シ故ニ本條ハ別ニ説明スルニ及ハズ然レ本條ニ親屬舊故等ト通稱シ或ハ面會スルコトハ相當官吏立會ノ上ナラハ許可セラル可シ試ミ佛國刑法ヲ看ルニ往古ハ國事犯人ヲ處スルニ死刑流刑及ヒ有期徒刑ヲ以テセリ千八百四十八年ニ至リ國事犯ノ死刑ヲ廢シ有期徒刑モ亦廢止シ之レニ換フルニ囚獄刑ヲ以テセリ(年期ニ長短ノ差アリト雖モ本條ト同一ナル刑ナリ)此囚獄人佛國城塞内ニ繫囚シ役ニ服スルコトナリ且ツ親戚朋友ト通信スルコト許シ又私ニ業ヲ營ムモ妨ケナキナリト本條亦如斯ク精神ナルニシテ...

第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁錮ハ定

役ニ服セス

禁錮ハ輕重ヲ分クテ十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ長短ヲ區別ス

○第十二條以下前條迄ハ重罪ノ主刑ニシテ本條及ヒ第二十六條ハ輕罪ノ主刑ナリ禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ常事犯ノ刑ニシテ犯人好ム所ノ工藝等ノ役ニ服セシメ外役ニ服スルコトナシ然レ本人ノ希望ニ從ヒ外役ニ服セシムルコトアリ輕禁錮ハ國事犯及ヒ常事犯ノ公義ヲ害スル淺少ナル犯人ニ施スヘキ刑ニシテ定役ニ服セシムルコトナシ而シテ其刑期ハ共ニ十一日以上五年以下トシ其定役ノ有無ニ因リ重輕ヲ區別スルノミ

禁錮ニ處セラルヘキ犯人ニハ夥多ノ種類アリ其情狀亦大差異アラカルコトナシ然ルニ之レニ適施スルニ十一日以上五年以下トスルハ或ハ廣漠ニ過キ不權衡ナキヲ保タス故ニ其刑期間ヲ種々ニ

區別シ其權衡ヲ得セシメタリ其詳細ナルヲハ第二編第三編ニ於テ記載セリ

第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其幾分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日以内ハ給與ノ限ニ非ス

○本條ハ徒刑以下禁錮ニ處セラレタル常事犯人刑期中服役シタル収額ヲ分配スルヲ規定シタル法條ニシテ其分配法ハ監獄則ニ詳記セリ斯ク工錢ノ幾分ヲ犯人ニ與フルニハ二箇ノ理由アリ
第一 犯人刑役ニ服シ多年ヲ經テ放免セラル、モ貯金ナケレハ營業ヲナサント欲スルモ資本ナキノミナラス糊口ニ苦ミ復タ惡意ヲ生シ再犯ノ恐レナキ能ハス之レニ反シ放免ノ際若干ノ金錢ヲ與フルキハ之ヲ以テ糊口營業ノ資トナシ復タ惡意ヲ生スルヲ

ナシ故ニ本條ハ法律ノ恩典ニシテ再犯預防法ナリ

第二 自己ノ利益トナラサルキハ其業ニ怠ルハ人情ノ常ナリ况ソヤ犯人ニ於テチヤ又自己ノ利益ヲ得ルキハ其業ニ勉強シテ從事スル亦人情ナレハ自ラ役ニ勵精スルナリ
斯ル理由アル者ナレハ悉皆工錢ヲ犯人ニ與フヘキ乎決シ與フヘカラズ何トナレハ獄舎ノ費用即チ食料衣服其他必要品ノ費用ヲ要ス此費用ハ犯人直接ノ消費ナレハ工錢ヲ以テ其支給ヲ爲サ、ルヲ得サレハナリ又百日以内ノ囚人ハ其刑期短少ナルヲ以テ復タ元ノ營業ヲ爲シ易シ且ツ服役中ノ工錢モ些少ナルヲ以テ何ノ用ヲモ爲サ、ルヘシ故ニ之ヲ與ヘサルナリ

第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

○第十二條以下前條迄ハ身体ニ施スノ刑ニシテ本條ハ財産ニ施ス至刑ナリ

罰金最下限ヲ二圓トナシタルハ科料最上限壹圓九十五錢ナルヲ以テ亦異名同刑ノ憂ヲ防クナリ其最上限ヲ規定セサルハ怪ム可キニ似タレモ怪ムニ足ラズ刑法上規定シタル最上限ハ五百圓(第二百七十五條參看)ナレモ第百九十三條ノ如キ其價額二倍ノ罰金ニ處スル等ノ法文アルヲ以テ其最上限ヲ記シ得可ラス
如斯汎然タル法文ナレモ其小區分ハ第二編及ヒ第三編ニ明記シタルヲ恰モ禁錮ニ種々ナル區別アルカ如シ

第二十七條 罰金ハ裁判確々ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過クルヲ得ス
若シ禁錮限内罰金ヲ納メタル時ハ其經過シタル日數ヲ扣除シ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シ

○此條ノ罰金ハ主刑附加刑ヲ論セス總テ罰金ノ宣告ヲ受ケタル者ニハ控訴上告期限滿期ノ日ヨリ起算シテ三十日内ニ之ヲ納メシム然モ貧困又ハ他ノ事故アリテ限内ニ納完スル能ハサル者アル時ハ管轄裁判所ノ檢察官ヨリ其裁判所ニ禁錮ニ換ヘンコトヲ請求シ其裁判所ハ別段裁判ヲ用ヒスニテ罰金ヲ禁錮ニ換フルコトヲ命スヘシ但一圓ヲ一日ニ折算ス其零數ヲ生シタルモ尙一日ニ計算ス例ヘハ十五圓六十錢ノ罰金ヲ禁錮ニ換フルモハ十六日トナスカ如シ第百九十三條ノ場合ニ於テハ何千何万圓ノ罰金ヲ宣

告セラル、モ圖ル可ラス若シ之ヲ禁錮ニ換フルキハ何千日何万
 日ノ長期トナリ重罪ト混一スルカ如シ然ルキハ甚ダ不權衡ナル
 ナ以テ預メ之レカ限界ヲ定メ其患ヲ防カサル可ラス故ニ二年以
 上ニ過クルヲ得スト定メタルナリ
 論者アリ曰ク平年ハ三百六十五日ナリ則二年ハ七百三十日ナリ
 トス故ニ金七百三十圓以下ノ罰金ヲ納ムルヲ能ハスシテ禁錮ニ
 換フルキハ本條ノ如ク一圓チ一日ニ折算スルヲ得ルト雖モ若シ
 千五百圓ノ罰金ヲ納ムヘキ者ヲ以テ禁錮ニ換フルキハ一日殆ト
 五十錢ニ當ル甚ダ不公平ナル法文ニ非スヤ又罰金ヲ禁錮ニ換フ
 ルニ輕禁錮ト限ルハ如何ナル理由ソヤト
 誠ニ然リ豈其レ然ラシヤ元ト法律ヨリ見ルキハ罰金百圓ヨリ寧
 ロ禁錮十一日ヲ以テ重シトス又然ラサルヲ得ス金錢ハ勞力ヲ以

テ得ヘキ外物ニシテ自由ハ一日モ欠ク可ラサル内部ノ貴重ナル
 財産ナリ故ニ自由ヲ奪ハル、ハ金錢ノ比ニ非ス罰金多クハ附加
 刑トシ主刑ノ不足ヲ補ハシム又主刑トシテ科スルモ多クハ惡意
 ニテ犯シタルモノニ科セス然ルニ此等ノ犯人ニ對シ殆ト禁錮ノ
 最上限或ハ重罪ノ刑ニ混スルカ如キ長期ヲ科スルハ不權衡ト謂
 ハサルヲ得ス故ニ二年ト限リタルハ至當ナリト謂フヘシ又輕禁
 錮ハ定役ナクシテ重禁錮ノ比ニ非ス乃チ國事犯ノ輕罪或ハ常事
 犯ノ輕罪ニシテ惡ムヘキ意思ヲ以テ犯シタルモノニ非サレハ此
 刑ニ處セサルナリ罰金刑ニ處セラル、者ハ殆ト無意犯ナリ且ツ
 罰金ハ輕罪中最輕ノ刑ナレハ之レニ換フルニ重禁錮ノ如キ輕罪
 中最重ノ刑ヲ以テスルハ酷ニ涉リ其當ヲ得ス故ニ輕禁錮ニ換フ
 ルナリ

己ニ禁錮ニ換ヘラレタル犯人受刑中罰金ヲ納メザルキハ其全額中ヨリ己ニ經過シタル受刑日數ヲ扣除シ禁錮ヲ免サルヘシ例ヘハ罰金五十圓ニ處セラレ之ヲ禁錮五十日ニ換ヘ己ニ十五日間受刑シタルキハ其經過シタル十五日即チ十五圓ヲ扣除シ殘ル日數三十五圓ヲ納メシメテ禁錮ヲ免スノ額ナリ

總テ身体ニ施スヘキ刑ハ金錢ヲ以テ贖フヘキモノニアラス(舊法ニハ之ヲ許可シタルモ不道理ノモノナルヲ以テ廢シタリ)本刑ノ如キハ元ト罰金刑ニシテ一時金錢調達セサルヲ以テ止ムヲ得ス禁錮刑ニ換ヘタルモノナリ故ニ原刑即チ罰金ヲ納メタルキ之ヲ放免スルハ當然ナリ又罰金ヲ納ムル者ハ必ス本人ニ限ルニ非ス親屬其他何人ト雖モ代テ納ムルヲ許ス蓋シ法律ハ何人ヨリ受納スルモ本犯ヨリ納メタルト同一視スル故ナリ

第二十八條 拘留ハ拘留所ニ留置シ定役ニ服セス其刑期ハ一日以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス

○本條及ヒ次條ハ違警罪ノ主刑ナリ元來違警罪ハ不注意ヲ罰スルト多シ斯ル微罪ナレハ其刑亦禁錮ノ比ニ非ス唯違警罪裁判所ノ拘留場ニ一日以上十日以下ノ時間拘留スルノミコシテ定役ニ服スルトナシ拘留時間ノ長短ハ第四編ニ記載セリ

第二十九條 科料ハ五錢以上一圓九十五錢ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス

○科料ト云ヒ罰金ト云フモ同性質ニシテ唯輕罪ト違警罪トニ由テ其名目ヲ異ニスルノミ科料ヲ五錢ヨリ壹圓九十五錢以下トナシタルハ罰金ノ最下限ヲ二圓ト定メタルヲ以テナリ其多寡ヲ區別ハ第四編ニ記載セリ

本條及前條ハ已ニ第九條ニ記載セルカ如ク違警罪ノ主刑ニシテ之ヲ適施スルニ當リ拘留科料ノ内其一ヲ以テ罰スルヲ裁判官ノ權内ニ委テタリ是レ亦違警罪ノ他ト異ナル所以ナリ

第三十條 科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ之ヲ拘留ニ換フ

○本條ハ第二十七條ト同一ナル精神ニシテ其方法等ニ至テモ大差ナシ第二十七條ハ輕罪ニ罰金ヲ科シテ以テ輕罪中ノ輕罪即チ輕禁錮ヲ換フ違警罪ハ科料ヲ除ク他ニ拘留ノ刑一アルニ故ニ之レヲ換フ又第二十七條ハ一月内ニ本條ハ十日内ト規定シタルハ金額大ナルハ調達スルニ難シ故ニ長ク猶豫ヲ與ヘ金額小ナルハ調達スルヲ易シ故ニ猶豫時間ヲ短クスルニ由ルナリ

第三節 附加刑處分

第三十條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 國民ノ特權
- 二 官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章年金位記賞号恩給ヲ有スルノ權
- 四 外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權
- 五 兵籍ニ入ルノ權
- 六 裁判所ニ於テ証人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラズ
- 七 後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラズ
- 八 分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
- 九 學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

○本條ハ重罪ニ附加スヘキ刑ニシテ苟モ重罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ當然終身此權ヲ行フヲ得ス而シテ本條記載セル附加刑ヲ細分スレハ一二ノ場合ハ國政ニ關シ三四五ノ場合ハ名譽ニ關シ六以下ノ場合ハ信用ニ關ス如此其性質ニ於テハ少差違アリ雖モ到底直接ニ犯人ノ心情ヲ罰シテ間接ニ財產ト利益上トニ罰ヲ及スモノナリ佛國ニ於テハ此刑ヲ以テ往々主刑トシテ科スルコトアリ佛刑法第八條參看我カ刑法ハ之ヲ改メテ附加刑トノミナシタリ故ニ公權ヲ剝奪セラレタル者私ニ此權利ヲ行ヒタルハ第五百十四條ヲ以テ罰セラレヘシ

一 國民ノ特權トハ國民其國ノ政務ニ對シ特有スル權利ニシテ論上ヨリ云ヘハ國會及ヒ府縣會村會ノ議員撰舉權及ヒ被撰舉權請願ノ權其他倍審(本邦ニハ未ダ倍審ノ設ケナシ佛治罪法第二百八十一

條以下參看)兵長及ヒ代言人等ノ如キ總テ外國人ヲ有シ能ハスルヲ本國一般人民ノ享有スル權利ナリ然レ此特權ナルモノハ憲法ノ認許ヲ以テ確定スルモノナリ本邦未ダ憲法ノ制定ナキヲ以テ此權利ノ區域ハ未ダ預定スルヲ得ス

二 官吏トハ二等ヨリ十七等官及ヒ之レニ準スル者ヲ謂フ此權利ヲ剝奪セラレタルハ現任官職ハ論ナク將來官吏トナルヲ得ヘキ權利ナシ

元來官吏ト爲ルノ權ハ國民ノ特權且ツ公義務ナリ然レハ前項ニ於テ國民ノ特權トアルヲ以テ別段本項ヲ設クルニ及ハサル如クナレハ決シテ然ラス凡ソ官吏ナル者ハ政府即チ無形人ノ中ニ立テ政務ヲ直轄シ或ハ之レヲ補翼スルモノナリ國民ノ特權ヲ以テ議員ニ撰舉セラレタル者ハ固ヨリ直接ニ政權ニ參與シテ之レ

左右ス下雖は尙人民ノ資格ヲ有シタルモノニシテ官吏ノ如ク
 無形人ノ中ニ立ツモノニ非ス。斯ク性質ヲ異ニスルヲ以テ決シテ
 前項ト同一視スヘキモノニ非ス。
 三勳章ニハ勳章條例ニ從ヒ授與スル所ノ總テノ勳章及ヒ從軍記
 章ヲ謂フ年。金トハ功勞ヲ賞譽シテ年々授與スル所ノ金圓ヲ謂フ
 位記トハ正一位ヨリ從九位迄ノ位階ヲ謂フ貴号ハ華士族ノ稱号
 ナリ恩給ハ恩給令ニ從ヒ慰勞ノ爲メ授與スル所ノ金圓ナリ。
 此數者ハ本邦政府ヨリ或ハ賞譽ニシ或ハ名譽トシ或ハ慰勞ニシ
 テ授與シタル者ナリ故ニ重罪犯ノ如キ者ニ對シ本邦政府ノ權ヲ
 以テ之ヲ奪フ然レ第六四五六條ノ場合ニ於テ復權ヲ得タル者
 ハ此等ノ權ヲ復スルコトヲ得。此等ノ權ハ復權ノ權ニ非ズ。ハ
 四前項ニ本邦政府ヨリ授與タルモノナリ。以テ亦之ヲ奪フノ

權アリト雖も本項ハ外國政府ヨリ授與シタル勳章ナルヲ以テ本
 邦政府ハ之ヲ奪フノ權利ナク故ニ之ヲ本邦内ニ於テ佩用スルノ
 權利ハ之ヲ奪フナリ。若シ此權利ヲ奪ハレタル者外國ニ於テ之ヲ
 佩用スルハ其國ノ決シテ第五十四條ノ犯人トシテ罰スルヲ得ス。
 五苟モ國民タル者其國ヲ守護スル國民ノ名譽且ツ公
 義務ナリ。然レ自國ヲ護衛スルノ權ヲ奪ハレタルモノハ國民ニ
 シテ國民ニ非ス。現今大ニ徵兵ヲ懸テ百方之ヲ免ル、ノ術ヲ盡ス
 モナリ。此レ甚ク事理ヲ辨セ。此等ノモノト謂フヘシ。
 六民事刑事ヲ問ハス裁判所ニ於テ証言スルハ其証言ノ如何ニ
 因リ原被告ノ權義確定スルモノナリ。必ス誠實ニ陳述セ。其
 得テ又証人トシテ裁判所ニ出庭シ証告シタルハ裁判官取捨ス
 ルノ理由ヲ附シテ其裁判章渡書中ニ記載セサル可ラス。然レ事實

陳述人ノ陳言ハ單ニ裁判官ノ參考トナスニ止マリテ其取捨ハ裁判官渡書ニ記載スルニ及ハス
 刑事ノ証人トシテ裁判所ニ出庭シ証言スル者ハ必ス誠實ニ証告スヘキノ宣誓ヲセサルヲ得ス(治罪法第百八十條參看)若シ此宣誓ヲ爲サズシテ証言シタルハ證據トスルニ足ラス(事實ノ陳述ニ止マルノミ)宣誓シテ証告シタル者若シ詐偽ノ陳述ヲナシタルハ其模倣ニ因リ第二百十八條以下數條ノ刑ヲ以テ罰セラルヘシ事實陳述人ハ宣誓ヲ爲スニ及ハス又假令詐偽ノ陳述ヲナシタリト雖モ刑法上問フヘキモノニ非ス以上説明スルカ如ク証人ノ任ハ重大ナリ故ニ重罪ヲ犯シタル者ハ證人ト爲スヘカラス何トナレハ其言固ヨリ信スルニ足ラサレハナリ
 本項ニハ裁判所ニ於テ證人トナルノ權アリト然レハ證書類ニ證人

トナルノ權アリヤ如何ン此問ヲ決スルニハ佛刑法ヲ引例トナシ説明スルヲ必要トス

佛國刑法第三十四條三項ニ曰ク倍審又ハ鑑定人トナルヲ證書類ノ證人トナルトアリ此法文ニ依レハ證書類ノ外ハ證人トナリ裁判所ニ對シ証言スルノ權アルカ如クナレモ證書類ノ證人トナル能ハサルモノ他ノ證人トナルノ權ナキヤ最モ賸易キ道理ナリ然レモ書類ノ證人トノミアルヲ以テ較ヤ明瞭チ欠キタルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ本項ニハ裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權トアリテ證書類ノ證人ト爲ルノ權アルカ如ク參看ユレモ決シテ然ラス抑々証人タルモノハ裁判所ニ對シ証告シ其事實ヲシテ明白ナラシメタルニ由リ其効ヲ奏シ其責任ヲ尽シタリト謂フヘシ故ニ假令證書類ニ加印シテ証人タルノ責任アリト明記スルモ已ニ裁

判所ニ對シ証告スルノ權利ヲ奪ハレタルキハ其加印ハ無効ナリ
 從テ其責任ナキヤ知ルヘキナリ例ハ甲アリ明治十四年一月証
 書ノ証人トナリ又ハ犯罪ヲ熟知シタリ而シテ甲ハ罪ヲ犯シ同年五
 月重罪ノ刑ニ處セラレ公權ヲ奪レタリ其後明治十五年二月ニ至
 リ右証書ノ訴訟起リ或ハ熟視シタル犯罪ノ公訴起リタルキハ甲
 犯罪以前ノ事實ナルヲ以テ証人トシテ裁判所ニ對シ証言スルノ
 權アリヤ如何余ハ此場合ニ於テモ猶本項ノ明文ニ從ヒ總テ証人
 トナルノ權ナシトス然ラハ則明治十四年一月証書ニ加印シテ証
 人タルモ己ニ無効ニ屬シ其責任モ亦ナシトセサルヲ得ス斯ク論
 シ去レハ法律ノ大原則即チ法律ノ効ハ既往ニ遡ラストノ旨趣ニ反
 スルカ如クナレトモ法律ハ犯罪者ノ言ハ信スルニ足ラスト思惟シ
 之レカ証告權ヲ奪ヒタリ己ニ其權ヲ剝奪セラレタル者法律ヲ破

リ自ラ其權利ヲ復シ証告スルノ理アラシヤ又本項ニハ單ニ証人
 トノミ記載シテ鑑定人及ヒ通弁人等ヲ記載セサルハ如何ン余ハ
 此點ニ付疑團ナキ能ハス左ニ其理由ヲ述ヘントス
 抑々証人ナル者ハ己ニ説明シタルカ如ク裁判官チノ其証言ニ據
 リ理非曲直ヲ判決セシムルノ重任ヲ負ヘリ鑑定人及ヒ通弁人亦
 然リ鑑定人ハ物件曖昧ニシテ裁判官ノ能ク判決シ能ハサルモノ
 アルキ鑑定ヲ爲シ裁判官チシテ其鑑定書ニ據リ判斷チ下サシム
 通弁人ハ此レト少差アリト雖モ語ノ通セサルキ通弁スルモノナ
 レハ其通弁人ノ如何ニ因リ被告人又ハ原告人ノ權利義務ノ消長
 スルモノナリ然レハ鑑定人及ヒ通弁人ノ裁判所ニ對スル行爲ハ
 証人ト秋毫ノ差違アルモノニ非ス夫レ然リ故ニ第二百二十四條
 ニ於テ鑑定人及ヒ通弁人ノ詐言アルキハ証人ノ詐言ト同一ニ罰

スト明記シアリ又治罪法第百五十條ニ於テ通辨人ハ正實ニ通辨
スヘキノ宣誓ヲ爲サシム同第百九十三條ニ於テ鑑定人ハ正實ニ
鑑定ス可キノ宣誓ヲナスヘシ其法式ハ第百八十條ノ式ニ從フ第
百八十條ハ證人ノ宣誓式ヲ定ムト明言シアリ此ノ如ク刑法及ヒ
治罪法ハ共ニ共同性質ナルヲ認メ宣誓及ヒ罰法ヲ同一ニ規定
シタリ然ルニ本項ニ於テ證人トノニ示シ他ノ二者ヲ示サ、ルハ
何等ノ理由ナルヤ立法者ハ他ノ二者ヲ以テ國民ノ特權ト看做シ
タルカ此二者ハ國民ノ特權トハ、較々其性質ヲ異ニスルモノ
ニテ本邦ノ如キ未タ憲法ノ確定セサル時ニ於テモ特權ト看做ス
ヲ得ス故ニ特權トシテ其權利ヲ奪フヲ得ス本項ニ據ランカ本項
明文ナシ然レハ到底此二者ノ權利ヲ奪フヲ得ス同一ナル性質ヲ
有シタル者ニシテ一ツハ信スルニ足ラストシテ其權利ヲ奪ヒ一

ツハ信ヲ置クニ足ルトシテ尙其權ヲ全フス是レ不權衡ナラサル
歟試ミニ佛國刑法第三十四條三項ヲ閱スルニ倍審又ハ鑑定人ト
ナルヲ証書類ノ証人トナルヲアリ該項ハ前段非難セシカニ鑑
定人ト證人トヲ同一視シタリ我刑法亦此精神ナルヘシト雖モ明
文上ヨリ云ヘハ必ス法ノ欠點ト云ハサルヲ得ス
七本項ハ前數項ト大ニ其性質ヲ異ニス前數項ハ公權ナレモ本項
ハ所謂族權即チ私權ナリ故ニ他ノ公權ハ復權ノ許可ヲ得ル迄ハ
決シテ親屬ノ許可ヲ以テ自ラ其權利ヲ復シ得ヘキモノニ非スト
雖モ私權ハ子孫ノ爲メ親屬ノ許可ヲ得ルモ其權ヲ使用スルヲ
得ルナリ
未丁年者及ヒ白痴瘋顛等ノ如キ精神確定セズ智識具備セサル者
及ヒ禁治産ノ命ヲ受ケタル者ニ代リ其財産ヲ支配スルモノ之ヲ

後見人ト謂フ後見人ハ被後見者ノ財産ヲ支配シテ他人ト契約ヲナスノ權ヲ有シ其財産ヲ保護スルノ責任アル者ナリ故ニ後見人正實ナルモノニ非レバ自己ノ費用ニ供スル等ノ所爲アルモ圖ル可ラス又後見人世間ニ信ヲ失フタル者ナルキハ被後見者ノ爲メ不利益ナル場合アリ然レハ後見人タルノ權利ヲ奪フハ後見人タル者ノ爲メ罰スト云フヨリ寧ロ被後見者ノ利益ノ爲メ之ヲ奪フト云フヘシ然レ法律ハ親子ノ愛情トシテ被後見者ニ不利益ヲ來シ若クハ不正ヲ爲スコハ之レナカルヘシトシテ子孫ノ爲メ親屬ノ許可ヲ得タルキハ此權ヲ行フヲ得ヘシト規定シタルナリ

八本項及ヒ次項ハ一種特別ナル公權ニシテ所謂民權即チ私權ト云フヲ得ヘキモノナリ分散者トハ即チ身代限ノ所分ヲ受ケタルモノヲ謂フ官ノ許可ヲ得テ設立シタル會社及ヒ共有財産ハ多ク

ハ多數ノ人民ヨリ集合シテ成立シタル者ニシテ即チ無形人ノ所有財産ナリ(身代限ノ處分ヲ受ケ未タ分配セサルキハ諸債主ノ共有物ニシテ亦無形人ノ所有財産ナリ)然レハ此等ノ財産ヲ管理スルモノナカル可ラス其管理ハ正實ナル者ヲ撰テ以テ之ニ充テサルヘカラス若シ然ラズンハ其危險名狀ス可ラス即チ犯罪者ノ如キ惡人ヲ以テ之レニ充ツレハ其任ニ適セズシテ害アルナリ

九本項ニ記載セル者ハ生徒ノ龜鑑トナルヘキモノナリ故ニ犯人ヲ以テ之レニ充ツレバ其當ヲ得スシテ亦害アルナリ

○第三十二條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス終身公權ヲ剝奪ス

○第七條ニ列記シタル刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス當然終身前條各項ノ權ヲ奪ハルヘシ

重罪刑ト雖モ死刑及ヒ無期徒刑ヲ除ケハ皆有期刑ナリ然ルニ
 終身公權ヲ奪フハ嚴酷ニ失シタルカ如クナレモ重罪犯ノ如キハ
 復タ信ヲ置クニ足ラス且名譽ヲ復セシム可ラス故ニ失當ニハ非
 ス况ヤ犯人大ニ悔悟シ己ニ善良ニ移リタルト認ムルモ第六十
 三條及ヒ第六十四條ノ如キ例外ノ場合アルニ於テチヤ
 死刑及ヒ無期徒刑ニ處セラレタル者ハ公權ヲ剝奪セサルモ固ヨ
 リ囚人ナルヲ以テ此權ヲ行フテ得ス殊ニ死刑人ノ如キハ其刑ヲ
 執行セハ復タ社會ノ人ニ非ス故ニ此等ノ刑人ニ對シ公權ヲ剝奪
 スルモ無効ナルニ非スヤト云フモノアリ然モ其然ラサルヲ信ス
 第六十四條等ノ場合ニ於テ主刑ヲ特赦シタルモ附加ノ剝奪公權
 ハ別段復權ノ許可ヲ得ルニ非レハ猶之ヲ行フテ得ス又第六十條
 ニ附加刑ハ期滿免除ヲ得ヘキモノニ非ストセリ然レハ死刑及ヒ

無期徒刑ハ平常公權剝奪ノ効力ヲ有セサルカ如クナレモ右三個
 ノ場合ニ於テ始テ其効力ヲ顯ハスナリ
 第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職
 ナ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行スルヲ停止ス

○前二條ハ重罪ノ附加刑ニシテ本條及ヒ次條ハ輕罪ノ附加刑ナ
 リ總テ禁錮刑ノ宣告ヲ受ケタル者ハ即チ現任ノ官職ヲ失ヒ復タ
 官吏ニ非ス且ツ其宣告セラレタル刑期間ハ第三十一條ニ記載シタ
 ル諸權ヲ行フテ得ス故ニ其刑期間ハ年金及ヒ恩給ヲ受クルノ權
 ナ然レモ刑限期間ノ日ヨリ其刑期間ノ年金及ヒ恩給ヲ扣除シテ
 元ニ復セシム又勳章等ヲ佩用スルノ權ナシ本邦政府ヨリ授與シ
 タル勳章ハ本邦政府ニ於テ其刑期中預リ置キ刑期限滿ノ日復タ
 之ヲ授クヘシ又其刑期間證ハトナリ或ハ後見人等トナリテ爲シ

タル所爲ハ無効ニ屬スルシ
第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス
監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止スル
主刑ヲ免テ止テ監視ニ付シタル者亦同シ

○本條ハ亦輕罪ノ附加刑ニシテ一項ハ正則ヲ示シ二項ハ變則即
チ主刑ヲ免シ附加刑タル監視ノミチ主刑トシテ宣告シタル場合
ナリ(第百廿六條及ヒ第百九十二條參看)

本條ハ三個ノ刑即チ主刑タル禁錮附加刑タル公權停止及ヒ監視
ヲ以テ罰ニ甚タ苛酷ナルカ如シ夫レ然リ然レ禁錮刑ノ刑期間ハ
固ヨリ公權ヲ停止スヘキモノニシテ其刑期限滿ノ日ヨリ六月以
上二年ノ監視ヲ附ス蓋シ再犯ヲ預防スルカ爲メナリ然ルニ監視
申若シ公權ヲ行ハシムルハ犯罪ニ易クシテ再犯預防ノ効大ニ

減殺スルニ至ル加之監視ニ付セラレタル時間ハ猶犯人タルヲ免
ルハ能ハス豈此刑人ヲシテ公權ヲ行ハシムルノ理ヲランヤ
第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス其主刑
終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルコトヲ禁ス

○第卅二條ハ則公權ニ關シ本條ハ則私權ニ關スル法文ナリ重罪
ニ處セラレタル者ハ宣告ヲ用ヒズシテ公權及ヒ私權ヲ剝奪セラ
ルニシ然レ公權ハ終身剝奪セラレハシト雖私權ハ刑期間ニ止
マル而シテ犯人自ラ財産ヲ治スルノ禁ヲ受ケタルハ親屬等ニ於
テ之ヲ管理スルナキハ其財産遂ニ消散シ犯人ハ意外ノ不幸ニ
陷ルニ至ル故ニ此場合ニ於テハ民法ノ規則ニ從ヒ後見人ヲ撰定
シテ其財産ヲ保護セシム
一旦重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ主刑アル附加刑アリテ充分懲

戒を重足然也又禁治産ヲ附加スルハ抑々何等ノ理由アル
 事ト云フ固ヨリ重罪犯人ニハ主刑アリ剝奪公權等ノ附加刑
 雖モ自ニ財産ヲ治スルノ權アリ其財産ヲ贈與シ又贈
 與ト受ケル等ノ自由アルヲ以テ自己ニ快樂費用ニ充テ罪囚ノ困
 苦ヲ忘レ爲ス刑ノ目的ヲ達スルヲ得ス加之刑場逃脫等ノ媒介
 上爲ルニ愛ヒテ故ニ必ズ禁治産ハ附加セザルヲ得ス法律治産
 去禁テルノ理由ハ斯ノ如クナルヲ以テ刑期滿限後禁之ヲ禁セズ
 何事ナレモ更ニ其効ナキニシテ爲スニ却テ犯人ノ不利益ナ
 來ス故ニ此附加刑ハ其刑期間ニ止ルモノニシテ剝奪公權等ノ如
 三終身附加スル刑ニ非ス
 第三十六條 流刑ハ囚幽閉ヲ免セズル時ハ行政ノ處分ヲ以テ治
 産ノ禁ニ幾分ニ免スルヲ得

○有期無期ヲ問ハズ流刑ニ處セラザル者ハ其行狀如何ニ因リ
 第三十三條ニ規定シタル期限ヲ經過シタルハ幽閉ヲ免サレ稍々
 自由ヲ得タ後ハ行政上ノ處分ヲ以テ治産禁ノ幾分ヲ免サルヘ
 シ然レ其部分中行政上如何ニ因リ多少ノ差違アリ亦以テ國事犯
 ノ寛待ナル義見ルヘシ例ヘハ甲ニハ貸借及ビ贈遺ヲ爲スル權ヲ
 免シ乙ニ單ニ買賣ヲ爲スル權ヲ免テ等ノ類ナリ此禁ヲ免否ス
 元來行政上特權ナルヲ以テ右ノ場合ニ於テ乙ハ甲ト等シキ
 禁ヲ免テ以テ下ヲ請求スルノ權利ナキモノトス
 第三十七條 重罪ノ刑ニ處セザル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス各本刑
 ノ短期三分ノ二ニ等シキ時間監視ニ付ス
 ○第三十四條ハ輕罪ノ附加刑タル監視ニシテ六月以上三年以下
 或ハ六月以上三年以下ノ期限ヲ本條ニ監視ハ重罪ノ附加刑ニ

之ヲ其期限ハ宣告セラレタル刑ノ最少限ノ三分ノ一ニ等例
 有期徒刑ニ處セラレタル者ハ其刑ノ最少限即チ十年ノ三分
 少限六年ノ三分ノ一即チ三年ノ監視ヲ附加スルノ類ナリ故ニ死
 刑及ヒ無期刑ハ本條未以テ支配スルヲ得ス
 監視ノ目的ハ已ニ說明シタルカ如ク唯再犯預防ノ一點ニアルヲ
 以テ其刑期ハ禁治産ノ如ク主刑ト併行スヘキニ非ズ若シ此レヲ
 シテ主刑ト併行セシムルキハ監視ハ其効ヲ奏スルヲ得ス何レハ
 レハ主刑服役中ハ島地或ハ懲役場或ハ禁錮場等ニ於テ監視則其
 他ノ規則ヲ以テ身体ヲ束縛セラレ決シテ自由ヲ得ル能ハス其
 擧手一投足皆看守人或ハ獄丁等ヲ注目スル所ニシテ己ニ業ニ監
 視セラレハ刑期滿限後ニ於テ始メテ其効ヲ顯

ハ再犯預防ヲ藥石トナルニシテ輕罪ノ監視ハ大概期限短少ニシ
 五年短キモ六年トス故ニ短期三分ノ一ト定メタルハ其當ヲ得
 リ所謂フニ及テ實際ニ照ス然ラズ例ニハ重懲役
 三處セラレタル者滿期後三年間ニ再犯ヲ爲サズルハ己ニ悔悟シ
 タル者爾看做サシ得ルヲ大ニシテ
 第三十八條ニ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告スルニ
 但各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ル
 ○此條ニ輕罪ニ監視ヲ附加スル者之ヲ宣告シ而シテ其監視ハ
 各本條ニ記載スル場合ニ限ルニシテ云フ法文ヲ別ニ說明ス
 要セシニ
 第三十九條ニ死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣告ヲ用

ヒス五年間監視ニ付ス

○本條ニ所謂期滿免除ハ治罪法ノ期滿免除トハ大ニ其性質ヲ異
 ニス治罪法ノ期滿免除ハ公訴ニ係リ本條ノ期滿免除ハ行刑ニ關
 ス而シテ行刑期滿免除ハ如何ナルモノナルヤチ一言スヘシ己ニ
 對審又ハ欠席裁定ヲ經テ刑ノ宣告ヲ受ケタル者其刑ノ執行ヲ違
 レ法律ニ規定シタル期間遂ニ捕ニ就カス刑期消滅シテ免除ス
 ルト期滿免除トス而シテ第五十九條ニ定メタルカ如ク死刑ハ刑
 名宣告ヲ受ケタルヨリ三十年無期徒刑三十五年ヲ以テ期滿免除
 ノ期限トス此期限ノ翌日ヨリ起算シテ滿五年間ハ當然監視ニ付
 スルガリ

論者アリ曰ク行刑期滿免除ノ理由ハ種々アリト雖モ第一ノ理由
 ハ長キ期限ヲ經過シタルヲ以テ社會ハ其罪ヲ遺忘スト云フニ

リ然ルニ尙監視ニ付スルハ社會ノ未タ其罪ヲ遺忘セルニ由ル然
 レハ法律ハ擅着シタル法文ヲ設ケタリト云フヘシト夫レ然リ豈
 夫レ然ラシヤ元來監視ハ期滿免除ヲ得ヘキモノニ非ス故ニ本條
 期滿免除後五年間監視ニ付シテ尙其舉動ヲ監視ス

第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終タル日ヨリ起算ス

明治十六年一月廿五日板權免許

同年三月十五日出版 (定價金三十五錢)

著述人

廣島縣士族

淺野 永一

東京神田區錦町貳丁目
三番地寄留

出版人

同縣士族

岩崎 好三郎

同神田區雉子町三十二番地

發兌書林

東京日本橋區通三丁目
同 同區西河岸
同 芝區三島町
同 神田區雉子町
大坂北久太郎町
同 備後町四丁目
西京三條通寺町

稻田 佐兵衛
須原 鉄二
山中 兵衛
巖 女 堂
柳 原 喜兵衛
此 村 彦助
福 井 源次郎

大坂	岡島興七	尾州半田村	小栗太郎兵衛	千葉縣千葉	立志舍
同	前川善兵衛	上州高崎	文心堂	尾州名古屋	石版舍
同	此村孝次郎	同	井上公道	羽後國酒本町	小池榮藏
同	吉岡平助	陸中盛岡	澤田正助	越後十日町	報國社
西京	村上勘兵衛	筑前博多	藤井孫次郎	上州富岡市	木田清三郎
同	田中治兵衛	備前岡山	渡邊源米	下總佐原	正文堂利兵衛
同	藤井孫兵衛	播磨堅町	長尾新太郎	常州土浦	柳旦堂
尾張名古屋	本町片野東四郎	甲府常盤町	內藤傳右衛門	仙臺大門町	木村文助
伊勢東町	淺野東助	甲府柳町	徵古堂	野州朽木	小林八郎
陸前石ノ卷	三陸屋利兵衛	加州金澤	牧野作平	越前福井	酒井安兵衛
信州長野	西澤喜太郎	下總堺町	文正堂	越後新發田	中澤屋仁三郎
高知種崎町	澤本駒吉	常州下妻	文正堂	加州金澤	近八郎右衛門
相州小田原	石壽堂	上州藤岡	松野屋直吉	三州西尾	川島富太郎
上州前橋	報告社支店	羽前五日市町	小池藤次郎	武州府中	渡邊壽彦
廣島大手筋	壹丁目早速社	阿波德島	坂井萬吉	青森縣森青	丹心堂
越後新潟	林富吉	信州上田	堺屋武右衛門	函館大門町	常野嘉兵衛
上州木崎	近源書房	靜岡吳服町	青木榮次郎	三州豊橋上傳馬町	録々舍
長崎酒屋町	安中與兵衛	勢州松坂	識戸忠右衛門	下總古河	青木國次郎

東 京 圖 書 館

新 門 四 八 函

一 一 部 三 架

類 號

